

社団法人 日本船舶海洋工学会
平成18年度(第110期)事業報告
(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

A 事務報告

【1】会合

平成18年度(第110期)日本船舶海洋工学会通常総会(平成18年5月25日、出席者66名内委任状47名、定足数40名)が開催され、平成17年度(第109期)事業報告・同収支決算報告に関する審議、平成18年度(第110期)事業計画・同予算案の審議及び細則の一部改定に関する審議事項を可決した。

日本船舶海洋工学会賞、日本造船工業会賞、日本海事協会賞、(別表(1)参照)、船舶海洋技術賞(吉識賞)(池端光尚君)・日本船舶海洋工学会奨励賞(乾賞)(別表(2)参照)の授与が行われた。また、名誉員および功労員の推薦が行われた。

第110期年度秋季臨時総会(平成18年11月16日、出席者65名内委任状39名)では、平成18年度収支予算案の修正、細則の一部訂正、終身会員の推薦および除名者についての各案件が承認された。

定例理事会が8回開催され、その他の委員会として、編集委員会、論文審査委員会、JMST編集委員会、国際企画委員会がそれぞれ下記に示すとおり開催された。

会合名	回	会合名	回
第109期年度通常総会	1	論文審査委員会	2
第110期年度臨時総会	1	JMST編集委員会	1
定例理事会	8	国際企画委員会	2
編集委員会	4		

【2】会員の異動

平成19年3月31日現在、会員総数は個人会員4,543名、団体会員138、計4681となった。また、通常総会(平成18年5月25日)において正員のうち2名の名誉員、11名の功労員を推薦し、臨時総会(平成18年11月16日)において正員のうち32名の終身会員を推薦した。

種別	前期末 (平成17年)	当期末 (平成18年)	増減
名誉員	32	34	+2
功労員	46	54	+8
正員	4,246	4,265	+19
(内終身会員)	(797)	(799)	(+2)
(内シニア会員)	(132)	(127)	(-5)
学生員	227	190	-37
団体会員	14	15	+1
1級	7	7	0
2級	16	15	-1
3級	107	101	-6
合計	4,695	4,681	-14

【3】委員会委員の委嘱

下記のとおり新たに委員を委嘱した。

1.論文審査委員会査読委員

上野道雄、川口勝義、林昌奎、田村兼吉、不破健、大川豊、安藤英幸、今井昭夫、岡田哲男、村山英晶、後藤浩二、石井和男、山本郁夫、永田修一

2.論文審査委員会 論文集電子化WG

木下健、大沢直樹、川村恭己、正岡孝治

3.編集委員会

土橋純也、早稲田卓爾、貴島高啓、難波康広

4.会務委員会(本部)委員

高橋雅博、村井基彦、内田誠、有馬正和、安川宏紀、安澤幸隆

5.造船技術国際シンポジウム-塗装と工作-運営委員会

吉田公一、加藤直三、大沢直樹、篠田岳思、藤原治郎、千田哲也、戸澤秀、Trevor Blakeley、Lee、Hyun-Kug、Luo、Haidong

6.造船技術国際シンポジウム-塗装と工作-実行委員会

吉田公一、加藤直三、大沢直樹、篠田岳思、千田哲也、戸澤秀、荒井宏範

7.研究委員会

下記の研究委員会委員を委嘱した。

(1)分野研究企画部会(設計・艦装分野)

金子仁

(2)船体構造国際標準規則研究委員会

原田晋

(3)海洋教育研究委員会

福島朋彦、佐藤治夫

(4)極厚板大入熱溶接部強度検討FS委員会

栗飯原周二

(5)海洋教育研究委員会

小林正典、山田智貴、中川隆政

(6)東アジア海洋環境モデル研究委員会

段輝軍、山中亮一、大塚耕司、中谷直樹、余志興、木下嗣基、北澤大輔、濱田孝治

(7)海洋におけるプラットフォーム技術検討委員会

高木健(委員長)、木下健、大内一之、原正一、大川豊、矢後清和、永田修一、村井基彦、難波康広、小梨昭一郎、池上国広、居駒知樹、石田茂資、井上俊司、宇都宮智昭、北澤大輔、柏木正、鈴木英之、増田光一、宮島省吾、安澤幸隆、矢野州芳、山口弘志、山崎哲生、

(8)JSSC

早稲田卓爾、吉田公一、孝岡祐吉、吉川孝男、岡田哲男、影山和郎

(9)マルチハル(多胴)船のフィジビリティ検討委員会

池田良穂、片山徹、鷲尾祐秀、丸尾孟、正岡孝治、小川剛孝、西川達雄

【4】名誉員および功労員の推薦

平成18年5月25日通常総会にて下記の名誉員2名および功労員11名を推薦した。

名誉員推薦

前会長 難波直愛(三菱重工株式会社)

前副会長 富田康光(ポリテクカレッジ京都)

功労員推薦

浦 環（東京大学）	経塚雄策（九州大学）
小瀬邦治（広島大学）	小寺山巨（九州大学）
新開明二（九州大学）	角 洋一（横浜国立大学）
高木幹雄（広島大学）	豊貞雅宏（九州大学）
馬場栄一（広島工業大学）	福地信義（九州大学）
矢島 浩（長崎総合科学大学）	

【5】終身会員の推薦

平成18年11月16日臨時総会において下記の終身会員32名を推薦した。

青木 正生	秋武 達也	秋葉 武彦	芦立 勲
石田 駿一	上田 隆康	薄葉 茂美	大山 綱之
海法 俊光	加藤 瞭	河内 昭一	川崎 邦夫
川原 靖夫	岸田 千秋	楠原 泰四	呉 清達
黒井 昌明	後藤 智巳	高橋 義明	竹本 博安
田中 司郎	津田 達雄	中西 正治	中山 幹彦
松本 宏之	宮本 雅史	村岡 弘文	元山 登雄
諸角 壯弑	米田 勲	劉 勝雄	和田 裕行

【6】関連団体との協力等

1. 日本学術会議
日本学術会議が主催する講演会等に共催した。
2. 日本工学会
PDE協議会の運用等に関連して日本工学会の事業に協力した。
3. 日本造船工業会
造船技術者社会人教育の事業等で日本造船工業会および日本中小型造船工業会と連携を図った。
4. 日本船舶技術協会
日本船舶技術協会の事業に協力した。
5. 海事工学三学会
日本マリンエンジニアリング学会および日本航海学会との連携を目的とし、会長懇談会等を行った。また、技術者支援事業等で日本マリンエンジニアリング学会と連携を図った。
6. 機械系関連学会
機械系関連学会の会長懇談会が発足し、機械週間制定にともなう展開と技術者継続教育の取り組みに関して連携を図ることとなった。
7. The Royal Institution of Naval Architects (RINA)
RINAと共催して2007年9月開催予定の造船技術国際シンポジウム - 塗装と工作 - を企画した。

【5】規則

下記2件の規則を制定した。

- ・会員の倫理意識の高揚を目的に日本船舶海洋工学会倫理規定を制定した。
- ・定期刊行以外の著作物の刊行を促進する目的で日本船舶海洋工学会出版事業内規を制定した。

B 事業報告

【1】 総会・講演会等

1. 通常総会および春季講演会

平成 18 年 5 月 25 日、大阪大学コンベンションセンターにおいて、平成 18 年度日本船舶海洋工学会通常総会および春季講演会を下記のとおり開催した。通常総会の出席者は 66 名（内委任状 47 名）であった。また、日本財団助成事業「国際学術協力を係わる海外派遣」の報告会を東部支部講演会と併設して開催し、「Ship of The Year 2005」応募作品の発表会を関西支部講演会と併設して開催した。

通常総会

期日：平成 18 年 5 月 25 日

場所：大阪大学コンベンションセンター

議案：

- 1)平成 17 年度事業報告
- 2)平成 17 年度決算報告・監査報告
- 3)平成 18 年度事業計画
- 4)平成 18 年度収支予算案
- 5)細則の一部変更について

表彰式：

- 1)日本船舶海洋工学会賞の贈呈
- 2)日本財団会長賞の贈呈
- 3)日本造船工業会賞の贈呈
- 4)日本海事協会賞の贈呈
- 5)日本船舶海洋工学会賞（発明・考案）
- 6)船舶海洋工学会奨励賞（乾賞）の贈呈
- 7)造船技術賞（吉識賞）の贈呈
- 8) 名誉員推薦状授与
- 9) 功労員推薦状授与

平成 18 年通常総会等日程

行事	年月日	会場
日本船舶海洋工学会 通常総会	平成 18 年 5 月 25 日	大阪大学 コンベンション センター
表彰式		
Ship of The Year 2004 応募作品 発表会		
「国際学術協力を係わる海外派遣」報告会	平成 18 年 5 月 18 日	東京海洋大学 越中島会館
造船技術・実務講座	平成 18 年 5 月 19 日	東京海洋大学 越中島会館

2. 臨時総会および秋季講演会

平成 18 年 11 月 16 日、神戸国際会議場において日本船舶海洋工学会平成 18 年度（第 110 期）臨時総会および秋季講演会を開催した。臨時総会には出席者 65 名（内委任状提出 39 名）のもと以下の審議事項が承認された。

平成 18 年度（第 110 期）臨時総会議題

- 1) 平成 18 年度収支予算修正
- 2) 細則の一部訂正
- 3) 終身会員の推薦
- 4) 除名者の承認

また、講演会は 400 名を超える参加者のもとに 199 件の講演発表が行なわれた。

講演会では下記の特別講演を実施した。

「船舶行政の現状と今後の取り組み」

伊藤茂氏（国土交通省大臣官房技術）

「今治造船のアクティビティと若手造船者への期待」

檜垣幸人氏（今治造船社長）

「常石造船の将来ビジョン」

神原勝成（常石造船社長）

平成 18 年臨時総会および秋季講演会等日程

行事	年月日	会場
日本船舶海洋工学会 臨時総会	平成 18 年 11 月 16 日	神戸国際会議場
講演会		
パネルディスカッション		
ポスターセッション		
特別講演： 「船舶行政の現状と今後の取り組み」 伊藤茂(国土交通大臣官房技術審議官)		
懇親会		花鳥園
講演会	平成 18 年 11 月 16 日	神戸国際会議場
ポスターセッション		

3. シンポジウム等の開催

1) MEC モデルワークショップ（第 6 回）

期日：平成 18 年 3 月 19 日

場所：東京大学 山上会館

内容：東アジア海洋環境モデル研究委員会の活動報告

2) IMPACT シンポジウム（第 1 回）

期日：平成 18 年 3 月 20 日

場所：東京大学 山上会館

内容：

基調講演 1 「包括的生態リスク評価の考え方と可能性」

田中嘉成

基調講演 2 「順応的管理と水産資源管理への応用」

勝川俊雄

IMPACT 研究委員会報告

「海洋大規模利用の必要性和包括的環境影響評価 III(Triple I)」

大塚耕司

「海洋隔離の III」

大宮俊孝

「メタンハイドレート開発の III」

野尻智洋

総合討論 「包括的環境影響評価手法のあり方」

3) セミナー「日本の海洋教育を考える」（第 2 回）

期日：平成 19 年 3 月 30 日

場所：東京海洋大学 越中島会館

内容：

海洋教育に関する最新情報の共有と海洋教育に関心ある人々の交流を目的とし、海洋教育を積極的に実施している小学校、水産高校、大学、企業、研究機関における事例紹介と講演を行った。

4) ミニセッション「日本の造船事業の将来を切り開く」

造船の魅力と造船事業の将来を学生に訴えることを目的に、平成 18 年 11 月 16 日開催の同名のオーガナイズドセッションを造船系の大学にてミニセッションとして開催した。

時期：平成 19 年 1 月～3 月

内容：

講演「日本の若い技術者に造船の仕事の魅力を訴えて行こう」
福島副会長
パネルディスカッション「日本の造船の将来を切り開く」

【2】理事会の開催

平成 18 年 4 月定例理事会

期日：平成 18 年 4 月 21 日
場所：日本船舶海洋工学会 会議室
出席者：理事 15 名、監事 1 名、事務局 1 名
主要議事：

- ・名誉員、功労員の推薦に関する審議
- ・学会賞授賞に関する報告
- ・平成 17 年度決算報告に関する審議
- ・規則の訂正・見直しに関する審議

平成 18 年 6 月定例理事会

期日：平成 18 年 6 月 16 日
場所：日本船舶海洋工学会 会議室
出席者：理事 13 名、事務局 1 名
主要議事：

- ・RINA との共催シンポジウムに関する報告
- ・論文集の電子化に関する報告
- ・Ship of The Year2005 に関する審議
- ・関連団体との連携に関する審議
- ・若手技術者支援に関する審議
- ・会員の異動に関する審議
- ・規則の訂正・見直しに関する審議

平成 18 年 7 月定例理事会

期日：平成 18 年 7 月 28 日
場所：広島大学大学院工学研究科 環境 2F 会議室
出席者：理事 11 名、監事 1 名、事務局 1 名
主要議事：

- ・秋季講演会オーガナイズドセッションの企画
- ・海事工学 3 学会会長懇談会に関する報告
- ・受託研究の手続きに関する審議
- ・技術者教育センター（仮称）の設置に関する審議
- ・総会および講演会の開催場所に関する審議
- ・次期役員の選挙日程について

平成 18 年 9 月定例理事会

期日：平成 18 年 9 月 29 日
場所：日本船舶海洋工学会 会議室
出席者：理事 9 名、監事 2 名、事務局 1 名
オブザーバー：4 名
欠席者：理事 6 名（委任状提出）
主要議事：

- ・論文集アーカイブの電子化計画に関する報告
- ・平成 18 年度終身会員の推薦に関する審議
- ・平成 18 年度奨学褒賞の授与に関する審議
- ・次期会長候補推薦委員会委員の選出に関する審議
- ・次期役員の選挙手順に関する審議
- ・第 25 回国際水槽会議開催計画に関する審議
- ・平成 19 年度補助金・助成金の申請に関する審議
- ・受託研究内規に関する審議

平成 18 年 11 月定例理事会

期日：平成 18 年 11 月 2 日
場所：(株)川崎造船 海友館新館 会議室
出席者：理事 11 名、監事 2 名、事務局 1 名
オブザーバー：1 名
欠席者：理事 4 名、監事 1 名

主要議事：

- ・次期商議員選挙結果に関する承認
- ・会員の異動に関する審議
- ・平成 18 年度除名該当者に関する審議
- ・平成 18 年度収支予算修正に関する審議
- ・本会倫理規定に関する審議
- ・シップ・オブ・ザ・イヤーの選考に関する内規の審議

平成 18 年 12 月定例理事会

期日：平成 18 年 12 月 15 日
場所：日本船舶海洋工学会 会議室
出席者：理事 13 名、監事 1 名、事務局 1 名
主要議事：

- ・セミナー等の開催に関する審議
- ・新研究委員会設置に関する審議
- ・次期代議員選挙結果の報告
- ・平成 19 年度事業計画、収支予算案に関する審議
- ・国際事業に関する審議

平成 19 年 1 月定例理事会

平成：19 年 1 月 19 日
場所：九州大学 21 世紀交流プラザ 会議室
出席者：理事 12 名、監事 2 名、事務局 1 名
欠席者：理事 3 名、監事 1 名
主要議事：

- ・術者教育センター設置に関する承認
- ・創立 110 周年記念行事の企画に関する審議
- ・出版事業の内規に関する審議
- ・倫理規定に関する審議
- ・学会賞選考委員の選出
- ・平成 19 年度事業計画および予算案に関する審議

平成 19 年 3 月定例理事会

平成：19 年 3 月 16 日
場所：大阪大学 GSE コモンイースト会議室
出席者：理事 11 名、監事 2 名、事務局 1 名
オブザーバー：3 名
欠席者：理事 4 名、監事 1 名
主要議事：

- ・平成 19 年度事業計画および予算案に関する審議
- ・創立 110 周年記念行事の企画に関する審議
- ・新規研究委員会設置に関する審議
- ・青少年啓蒙活動の推進に関する審議
- ・表彰に関する審議
- ・若手研究者海外派遣者の承認

【3】論文集・会誌および図書の刊行

1. 日本船舶海洋工学会論文集

平成18年6月および12月に下記のとおり日本船舶海洋工学会論文集第3号および第4号を発行した。本論文集の刊行には日本財団の助成を受けた。なお、従来同論文集には邦文論文のみを掲載していたが、英文論文も掲載することとした。

	論文数	頁数	発行部数
第3号(平成18年6月)	35	305	1,000
第4号(平成18年12月)	32	299	1,000
計	67	604	2,000

2. 学会誌

日本船舶海洋工学会誌「KANRIN」第6号から第11号までの6冊を下記のとおり発行した。

会誌・号・発行月	頁数	発行部数
KANRIN 第6号(平成18年5月)	124	5,300
KANRIN 第7号(平成18年7月)	196	5,300
KANRIN 第8号(平成18年9月)	115	5,300
KANRIN 第9号(平成18年11月)	89	5,300
KANRIN 第10号(平成19年1月)	100	5,300
KANRIN 第11号(平成19年3月)	81	5,300
計	705	31,800

3. Journal Marine Science and Technology (JMST)

JMST Vol.11 No.2 ~ Vol.12.No.1の4冊を発行した。

	論文件数	頁数	発行部数
Vol.11.No.2(平成18年6月)	7	74	550
Vol.11 No.3(平成18年9月)	6	69	550
Vol.11 No.4(平成18年12月)	6	70	550
Vol.12 No.1(平成19年3月)	4	64	550
計	19	225	2,200

4. 図書の刊行

「海洋資源 - 7つの不思議と11の挑戦 -」を海事プレス社から発行した。

【4】委員会の活動

1. 論文審査委員会

委員数：大坪英臣委員長ほか20名

論文審査委員会を2回開催し下記を実施した。

実施事項：

- ・日本船舶海洋工学会論文集第3号の論文審査
- ・日本船舶海洋工学会論文集第4号の論文審査
- ・論文集の電子化に関する協議
- ・論文集アーカイブの電子化に関する協議
- ・論文査読の電子化に関する協件
- ・平成19年度日本船舶海洋工学会論文賞および奨励賞の選考

2. 編集委員会

委員数：荒井宏範委員長ほか59名

編集委員会は下記を実施した。

- ・編集全体計画および調整のため支部編集幹事による幹事会4回
- ・特集等の企画・編集のため、各支部単位の編集委員会の随時開催
- ・全国組織となった委員会の委員相互の連携促進を図るため、秋季講演会にあわせての全体編集会議1回
- ・会誌「KANRIN」第6号、第7号、第8号、第9号、第10号、第11号の編集・発行

3. JMST編集委員会

委員数：児玉良明委員長ほか15名

JMST委員相互の書面交信等により下記の事項を実施した。

実施事項：

- ・Editorial Committee Member 3名の追加
- ・電子査読体制(Editorial Manager)への移行
- ・JMST Vol.11 No.2 ~ Vol.12.No.1の論文審査と論文掲載
- ・平成19年度日本船舶海洋工学会論文賞候補の推薦

4. 国際企画委員会

委員数：加藤直三委員長ほか13名

国際企画委員会は国際学術協力部会と国際基準部会で構成され、委員会を2回開催し下記を実施した。

実施事項：

- ・平成17年度若手研究者海外派遣報告会の開催
- ・若手研究者海外派遣の募集要件に関する審議
- ・平成18年度若手研究者海外派遣者(第2次)の選考
- ・平成19年度若手研究者海外派遣者(第1次)の選考
- ・平成18年度日本財団助成事業の実施
- ・海外の学協会との連携および国際海事機構(IMO)への対応に関する審議

5. 情報管理委員会

委員数：長谷川和彦委員長ほか9名

実施事項：

- ・日本船舶海洋工学会ホームページの更新

【5】研究企画推進活動

研究企画委員会および分野研究企画部会は特に学会研究活動活性化について重点的に検討しアクションプランを選定した。また外部資金導入を図り2件の調査研究を受注した。プロジェクト研究委員会、ストラテジー研究委員会のうち時限で終了したものを除き活動を継続するとともに新規設置も行き、それぞれ重要技術課題の時的・組織的な研究および国際基準・規格等に関する戦略的研究を促進した。また、会員相互の情報交換および技術交流を支援促進するために研究会も活動を継続した。

1. 研究委員会

平成18年度は合計5件の研究委員会を新たに設置し重要技術課題の検討、国際基準等に関する戦略的研究を実施した。新規設置を含む各委員会は以下のとおりである。また、従前同様の国際対応を目的とした機能を持たせたJTTCおよびJSSCも活動を継続した。

プロジェクト研究委員会

P-1 水上船舶の潜水避航実現可能性に関する研究委員会

P-2 鋼船工作法改訂研究委員会

P-3 艀装品の強度研究委員会(平成19年3月終了)

P-4 JSQS精度標準研究委員会(平成19年3月終了)

P-5 貨物油荷役遠隔制御装置設計基準研究委員会(平成18年3月終了)

P-6 海洋の大規模利用に対する包括的環境影響評価研究委員会

P-7 海中技術研究委員会

P-8 大規模海上浮体施設の構造信頼性および設計基準研究委員会

P-9 自律型無人ボート研究委員会

P-10 極厚板大入熱溶接部強度検討FS委員会(平成19年1月終了)

P-11 DPS研究プロジェクト委員会(平成18年度3月終了)

P-12 船体機関室周辺の狭隘タンク振動設計指針策定に関する研究委員会(新規)

P-13 居住区防火防熱設計研究委員会(新規)

P-14 東アジア海洋環境モデル研究委員会(新規)

P-15 マルチハル(多胴)船のフィジビリティ検討委員会(新規)

P-16 海洋におけるプラットフォーム技術検討プロジェクト研究委員会

ストラテジー研究委員会

S-1 IMO 復原性基準の機能要件化のための転覆リスク評価法研究委員会

S-2 船体構造国際標準規則研究委員会

S-3 海洋教育ストラテジー研究委員会

S-4 研究ストラテジー研究委員会

2. 研究会

会員相互の情報交換および技術交流を支援促進するため、研究会を設置し、研究発表およびシンポジウム等の活動を実施した。研究会は次のとおりである。

推進性能研究会、運動性能研究会、材料・溶接研究会、建造革新研究会、造船設計・生産技術研究会、海洋工学研究会、海洋環境研究会、情報技術研究会、東部支部構造研究会、関西支部KFR、関西支部材料・構造研究会、関西支部KSSG、西部支部性能研究会、西部支部構造研究会

3. 外部資金による調査研究事業

外部資金による調査研究事業の運用に関する内規を定め、2件の実績を得た。1件はプロジェクト研究委員会の活動支援を目的とするもの、1件は船舶のリスク評価と実海域性能の研究動向調査を目的とするものである。

【6】国際学術協力事業

1. 国際学術協りに係わる海外派遣

国際的視野を有する優れた若手研究者・技術者の育成を目的として下表8名を各国に派遣した。本事業の報告会を平成19年5月25日、サンシャインシティ文化会館にて実施する予定である。本事業は日本財団助成事業として実施された。

2. 海事関連学会との連携

1) 海事関連学会との協力協定の締結

ドイツ造船学会 (SCHIFFBAUTECHNISCHE GESELLSCHAFT e.V.) と会員特典、出版、共同活動、技術会議について協力協定を締結した。

2) Pan Asian Association of Maritime Engineering Societies (PAAMES) との連携

平成18年10月18日～20日に韓国・済州島で開催の第2回PAAMESおよびAdvanced Maritime Engineering Conference(AMEC2006)に参加し、国際常任委員会にて、参加学協会の追加、ジャーナルの発行、第3回PAAMESの主題、場所・日時等について協議した。

3) 英国造船学会 (RINA) とのジョイントシンポジウム

英国造船学会 (RINA) とのジョイントシンポジウムを2008年9月大阪にて開催することが合意された。主テーマは船舶建造技術に関するもので「塗装と工作」。

3. 国際規則・基準策定への貢献

- ・海上技術安全研究所が平成19年5月に実施するSAFEDOR (リ

スクベースデザイン及び基準に関するEUプロジェクト)とのワークショップに協賛し、積極的に参加することを決めた。

・国際基準の動向に関する情報の共有や意見の発信に関する学会の役割について協議した。

【7】助成金・補助金等による事業その他

1. 平成18年度日本財団助成事業

- 1) 国際学術協りに係わる海外派遣 (助成金 220万円)

前記【6】-1 参照

- 2) 造船学術の振興 (助成金 150万円)

前記【3】-1 参照

2. 文部科学省科学研究費補助金による事業

おもしろ船教・船・海の不思議実験と体験乗船の開催

(補助金 150万円)

下記のとおり東京、大阪、神戸、広島において横浜青少年を対象とした船舶に係わる種々の実験および船舶の乗船体験等を行い、青少年への海と船に関する啓蒙を深めた。

東部支部

期日：平成18年8月2日

場所：横浜シンポジア

参加者：100人

関西支部

期日：平成18年7月17日、8月22日～23日、25日～26日

場所：大阪大学、神戸大学、大阪府立大学

参加者：296人

西部支部

期日：平成18年8月18日

場所：大和ミュージウム

参加者：90人

3. 分担金

当会の国際化推進事業ほか諸事業に下記の分担金を受けた。

日本造船工業会より 175万円

日本海事協会より 40万円

【8】技術者支援事業

1. 技術者教育スキームの検討

(1) 技術者教育センター

平成18年度から「技術者教育センター(仮称)」を充足させ、特に継続教育(CPD)に関する検討チームを立ち上げ、平成19年度での試行に供するためのシステム検討、体制の検討などを行った。一方従来の日本マリンエンジニアリング学会などと運営していた「技術者支援委員会」との関連につき協議の結果、これを発展的に解消し、「技術者教育センター(仮称)」を平

派遣者	国際、学術協りに係わる海外派遣、調査テーマ	派遣地域
大石 桂三	メガコンテナ船の安全性に関する技術動向調査	欧州
久間 康充	Common Structural Rules (CSR)の適用状況と今後の動向および最新関連技術の調査	米国・欧州
黒田 貴子	航行不能船舶への初動対応・緊急曳航に関する研究動向の調査	欧州
千賀 英敬	長大弾性管の渦励振(Vortex Induced Vibration)とCFDに関する研究調査	米国
橋本 博公	船舶復原性に関する最新研究の調査 -船舶復原性分野へのCFD適用および艦艇の安全性評価手法について-	米国・ブラジル
前田 克弥	オーストラリアにおける石油・天然ガスの研究開発動向	オーストラリア
松尾 宏平	シブプリサイクルの国際動向と海外の船舶解撤ヤードの実地調査	東アジア・中東・欧州
湯川 和浩	ハリケーン・カトリナとリタによる海洋構造物の被害状況並びに海洋構造物設計基準の改訂動向調査	米国

成19年度より新たに「日本船舶海洋工学会能力開発センター」として技術者資格支援企画、技術者継続教育(CPD)、大学教育等支援(JABEE等)の機能を有するセンターを発足させることとした。

(2) 技術者教育への対応

- ・日本造船工業会、日本中小型造船工業が実施している「造船技術者社会人教育」と共催し、中堅技術者向けの講座を実施した。
- ・平成18年4月26日～27日、日本造船工業会にて技術士補取得のための講習会を開催した。

(3) 継続教育(CPD)の施策

- ・船舶海洋技術者の資質の向上ならびに国際的な技術者資格の相互承認に向けたCPDシステム構築について検討した。

【9】学会賞および奨学褒賞などの贈呈

日本船舶海洋工学会細則第74条にもとづき、学会賞および奨学褒賞を授与した。

1. 第109期年度通常総会において、別表(1)のとおり日本船舶海洋工学会賞・日本造船工業会賞・日本海事協会賞を授与

した。

2. 第109期年度通常総会において、第30回造船技術賞(吉識賞)が池畑光尚君に授与された。
3. 第109期年度通常総会において、別表(2)のとおり日本船舶海洋工学会奨励賞(乾賞)を授与した。
4. 第109期年度通常総会において、別表(3)のとおり日本船舶海洋工学会(発明考案等)を授与した。
5. 平成18年5月26日、シップ・オブ・ザ・イヤー 2005 候補作品の発表会が行われ選考委員会においてシップ・オブ・ザ・イヤー 2005 に「おれんじホープ」が選定され、「ちきゅう」には技術特別賞が授与された。
6. 大学卒業生の中で優秀論文の著者35名(12校24コース)に別表(4)のとおり、奨学褒賞(賞状ならびに賞牌)を贈呈した。
7. 高等専門学校等の卒業生の中で成績優秀な12名(5校10学科)に別表(5)のとおり、奨学褒賞(賞状ならびに賞牌)を贈呈した。
8. 高等学校等の卒業生の中で成績優秀な1名(1校)に別表(6)のとおり、奨学褒賞(賞状ならびに賞牌)を贈呈した。

別表(1) 日本船舶海洋工学会賞 日本造船工業会賞 日本海事協会賞

論文表題	受賞者	所属	賞
日本近海の波と風の統計的性質	辻本 勝 石田 茂資	海上技術安全研究所	日本船舶海洋工学会賞 日本造船工業会賞
Modelling navigation in muddy areas through captive model tests	Guillaume Delefortrie Marc Vantorre Katrien Eloit	Ghent University Ghent University Flanders ydraulics Research	日本船舶海洋工学会賞 日本造船工業会賞
労働環境安全のための工場内溶接・切断ヒュームの拡散制御に関する研究(その1、その2)	福地 信義	九州大学	日本船舶海洋工学会賞 日本海事協会賞
組合せ荷重を受ける連続防撓パネルの最終強度推定式の開発に関する研究	原田 実 藤久保昌彦 柳原 大輔	日本海事協会 広島大学 広島大学	日本船舶海洋工学会賞 日本海事協会賞

別表(2) 奨励賞(乾賞)

論文表題	受賞者	所属	賞
労働安全のための日射下の温熱環境評価と熱対策に関する研究(その1)(その2)	竹内 淳	IHIマリンユナイテッド	日本船舶海洋工学会 奨励賞
Study on the design of propeller blade sections using the optimization algorithm	竹腰 善久	三井造船	日本船舶海洋工学会 奨励賞

別表(3) 学会賞(発明・考案)

開 発	受賞者
高性能 NC 印字装置の開発	宮崎 建雄、島 義男 (ユニバーサル造船株式会社) 小池 哲夫、丸山 要一 (小池酸素工業株式会社)

別表(4) 奨学褒賞授賞者(大学)

学校名・対象学科	受賞者
東京大学工学部システム創成学科 環境・エネルギーシステムコース 知能社会システムコース	清水康弘・谷口善洋 鄭 琳・村上麻子
横浜国立大学工学部建設学科 海洋空間のシステムデザイン教室	浅 友紀・宇田川隆博 田村悠樹
大阪大学工学部地球総合工学科 船舶海洋工学科目	浅井 寛
広島大学工学部第四類 生産基盤工学課程 地球環境工学課程 社会基盤工学課程	川崎 裕 田中 力 徳本哲也
九州大学工学部地球環境工学科 船舶海洋システム工学コース	佐野嘉宣・首藤雄太 杉原雅明・須本祐史
大阪府立大学工学部 海洋システム工学科	伊藤恵実・松井 敦
長崎総合科学大学工学部 船舶工学科	小島 明
東海大学海洋学部 マリンデザイン工学科	今井雄太・川上 大
東京海洋大学 商船システム工学課程航海学コース 商船システム工学課程機関学コース 流通情報工学課程 交通電子機械工学課程	緑本啓祐・山下一也 川副史隆・菅 洋平 駒形 瞳 須和高司
神戸大学海事科学部 商船システム学課程航海学コース 商船システム学課程機関学コース 流通情報システム工学課程 海洋電子機械工学課程 動力システム工学課程	關彩季枝 町田 聡 吉田大海 坂邊久美 野里英昭
海技大学校海上技術科 航海科 機関科	大宜味誠 橋 弘
海上保安大学校本科 第一群 第二群	和多田聖 吉田北斗

別表(5) 奨学褒賞授賞者(商船高等専門学校)

学校名	氏 名
弓削商船高等専門学校 商船学科・航海コース 商船学科・機関コース	藤岡佐利 濱田勝宏
大島商船高等専門学校 商船学科・航海コース 商船学科・機関コース	川本周平 川原和貴
富山商船高等専門学校 商船学科・航海コース 商船学科・機関コース	松場澄子 串田和章
鳥羽商船高等専門学校 商船学科・航海コース 商船学科・機関コース	正村典子 山上雄基、久保有己雄 山口耕平
広島商船高等専門学校 商船学科・航海コース 商船学科・機関コース	牧野優希 大成将人

別表(6) 奨学褒賞授賞者(高等学校)

学 校 名	受賞者
山口県立下関中央工業高等学校 機械造船科	山田卓弥

【10】 共催および後援

別表(7)、(8)、のとおり関連学協会の講演会・シンポジウム等に共催および後援を行った。また、68件の協賛を行った。

【11】 特別事業

1. シップ・オブ・ザ・イヤー 2005

(1) 募集

・2005年に国内で建造された船舶を対象に募集し、「ちきゅう」「おれんじホープ」の2隻の応募があった。

(2) 審査結果および表彰式

・平成18年5月26日に応募作品発表会および選考委員会が開催され、「おれんじホープ」(所有者:(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構、四国開発フェリー(株)、建造者:今治造船(株))が受賞作品に、「ちきゅう」(所有者:(独)海洋研究開発機構、建造者:三菱重工業(株)、三井造船(株))が準賞作品に選ばれた。また「ちきゅう」には技術特別賞が授与された。

・平成18年7月21日、日本海運倶楽部において多数の来賓出席のもとに表彰式が開催され、楯が受賞船に表彰状が所有者および建造者に贈呈された。

(3) 広報活動

・シップ・オブ・ザ・イヤー を通じて広く社会に船や造船に関する普及、啓蒙を行うため、シップ・オブ・ザ・イヤーの記念行事を実施した。関西支部では、学生のための「受賞船および建造造船所見学会」を10月27~29日の2泊3日で行い、61名の参加者のうち、43名が大学で船舶海洋工学を学ぶ学生会員であった。西部支部では10月7日に三菱重工業(株)下関造船所で「進水式見学会・家族会およびシップ・オブ・ザ・

「イヤー2005 受賞作品紹介イベント」を行い、79 名が参加した。

2. 船・海の啓蒙書の発行

- ・一般の人々へ船や海洋の魅力を知ってもらうための活動として、船や海に関する啓蒙書を発行することとし、「海洋資源 7 つの不思議と 11 の挑戦」を海事プレス社から発行した。本書の執筆には船舶海洋系の大学教員および研究所の研究者の協力を得た。

3. 国際化推進事業

1) 事業活動

- ・ Pan Asian Association of Maritime Engineering Societies (PAAMES) との連携

- ・ 学会英文ホームページの構築

2) 事業の成果

- ・ 平成 18 年 10 月 18 日～20 日に韓国・済州島で開催の第 2 回 PAAMES および Advanced Maritime Engineering Conference(AMEC2006)に参加し、国際常任委員会にて、参加学協会の追加、ジャーナルの発行、第 3 回 PAAMES の主題、場所・日時等について協議した。
- ・ 学会の日本語のホームページに対応する英文ホームページを開設した。

別表(7) 共催

開催期日	名称	主催	開催地
2006.4.1	造船技術者社会人教育	日本造船協業会 日本中小型造船工業会 日本船舶海洋工学会	大阪
2006.5.19	第 3 回造船技術実務講座	日本造船協業会	東京
2006.9.18 ～20	Techno-Ocean 2006/19th JASNAOE Ocean Engineering Symposium	Techno-Ocean Network	神戸
2007.7.6 ～6	第 37 回安全工学シンポジウム	日本学会会議	東京
2007.6.23	日本学会会議 第 26 回混相流シンポジウム	日本混相流学会	札幌
2007.9.10 ～13	TEAM2007 (21st Asian Technical Exchange and Advisory Meeting on Marine Structures)	国際会議 TEAM2007 実行委員会	横浜
2007.4.25	「より理想的な鋼構造の設計・製作法を目指して」異分野交流シンポジウム	日本溶接協会 鉄鋼部会 日本船舶海洋工学会材 料・溶接研究会	東京

別表(8) 後援

開催期日	名称	主催	開催地
2006.11.21	シンポジウム「アルミニウム合金の摩擦攪拌接合継手の締特性とその施工法の動向」	軽金属溶接構造協会	東京
2007.2.7	原子力立国に向けた材料・機器信頼性研究開発の役割と今後の展望 (原子力研究委員会 50 周年記念)	日本溶接協会	東京
2007.6.18	原子力発電プラントにおける溶接・残留応力と強度に関する国内シンポジウム	日本溶接協会	東京

【12】支部活動

東部支部

1. 東部支部総会の開催

下記のとおり第 2 期(平成 18 年度)東部支部通常総会を開催した。

日時:平成 18 年 5 月 18 日 場所:東京海洋大学 越中島会館

出席:東部支部商議員 64 名(内委任状 35 名)

議事:

- (1) 役員の承認
- (2) 支部規則一部改定の承認
- (3) 平成 18 年度事業計画の承認
- (4) 平成 18 年度予算案の承認

2. 講演会の開催

下記のとおり東部支部春季講演会を実施した。

期日:平成 18 年 5 月 18 日 - 19 日

場所:東京海洋大学 越中島会館

講演数:55 件

- ・ 特別講演「メディアの立場から見た世界の中の日本の造船業・海運業の動向と将来像」(横川良二氏)が行われた。
- ・ OS 2 件「海上物流」、「国際船級協会連合(IACS)の船体構造共通規則(CSR)の発効と今後の課題」が行われた。
- ・ 懇親会を開催した。
- ・ 若手講演優秀賞授賞
下記の 2 名に若手講演優秀賞を授賞した。

- ・ 村井基彦
講演題目:海浜公園における潮干狩り行動の数値シミュレーションに関する研究
- ・ 有木俊博
講演題目:GLS 法による日中海上物流の最適化

3. 委員会の開催

東部支部運営委員会・会務委員会・講演会運営委員会合同会議
第 1 回合同会議

期日:平成 18 年 6 月 27 日

場所:メルパルク東京

審議事項:

- (1) 平成 17 年度支部事業について
- (2) 平成 18 年度支部事業について
- (3) 会務委員長の交代について
- (4) 若手講演優秀賞授賞

下記の 2 名に若手講演優秀賞を授賞した。

- ・ 村井基彦 講演題目:海浜公園における潮干狩り行動の数値シミュレーションに関する研究
- ・ 有木俊博 講演題目:GLS 法による日中海上物流の最適化

東部支部運営委員会

委員数:角委員長ほか 12 名

第 1 回運営委員会

期日:平成 18 年 4 月 28 日 場所:日本船舶海洋工学会

審議事項:

- (1) 平成 18 年度事業計画及び収支予算案
- (2) 会務委員会役割分担
- (3) 平成 18 年度東部支部総会次第

第 2 回運営委員会

期日:平成 18 年 9 月 25 日 場所:日本船舶海洋工学会

審議事項:

- (1) 東部支部商議員選挙について

- (2) 会長候補者選考委員会委員について
- (3) 講演会の統合化について

第3回運営委員会

期日：平成18年10月31日 場所：日本船舶海洋工学会

審議事項：

- (1) 会長候補者選考委員会委員について
- (2) 平成19-20年度役員及び代議員の選挙について
- (3) 新東部支部ホームページの構成について

第4回運営委員会

期日：平成19年3月8日 場所：日本船舶海洋工学会

審議事項：

- (1) 東部支部支部長候補者選考委員会の選考結果の確認
- (2) 東部支部支部長選挙、支部推薦理事選挙、支部監事選挙結果の承認
- (3) 平成18年度会計監査および決算手続の承認
- (4) 平成18年度会計報告および平成19年度予算案の承認
- (5) 平成19年度東部支部事業計画(案)および予算案の承認
- (6) 講演会の開催、会員への情報提供および広報種別、若手育成事業について
- (7) 東部支部の若手育成に貢献するため「水中ロボットコンベンション07」を東部支部との共催とする旨の承認
- (8) アウトリーチ種別における「船舶学館」との連携の推進について
- (9) 海洋教育ポータルサイト開設に係わる海洋教育ストラテジー研究委員会との連携と今後の方針について承認

第5回運営委員会

期日：平成19年3月31日 (書面審議)

審議事項：

- (1) 平成18年度事業報告の承認

東部支部会務委員会

委員数：角委員長(第1回は庄司委員長)ほか11名

第1回会務委員会

期日：平成18年4月18日 場所：日本船舶海洋工学会

審議事項：

- (1) 東部支部総会、春季講演会について
- (2) 会務委員会活動案について
- (3) 技術者教育関連 CPD プロジェクトについて

第2回会務委員会

期日：平成18年7月25日 場所：日本船舶海洋工学会

審議事項：

- (1) 19年度の総会・春季講演会について
- (2) 東部支部商議員選挙日程について
- (3) 青少年啓蒙活動について

第3回会務委員会

期日：平成18年9月6日 場所：日本船舶海洋工学会

審議事項：

- (1) 東部支部商議員選挙について
- (2) 学会活動の活性化について

第4回会務委員会

期日：平成18年10月24日 場所：日本船舶海洋工学会

審議事項：

- (1) 東部支部選挙について
- (2) 東部支部のホームページと共有サーバについて
- (3) 議事録と資料の保管について

第5回会務委員会

期日：平成18年12月19日 場所：日本船舶海洋工学会

審議事項：

- (1) 海洋教育ストラテジー研究委員会との連携について
- (2) 平成19年度東部支部事業計画案
- (3) 創立110周年記念行事(平成19年度)の計画について
- (4) 平成19年度科学研究費補助金計画調書の提出について

第6回会務委員会

期日：平成19年2月27日 場所：日本船舶海洋工学会

審議事項：

- (1) 次期支部長候補者の選考及び選挙日程の変更について
- (2) 平成18年度事業報告、会計監査について
- (3) 平成19年度事業計画、予算について
- (4) 青少年啓蒙活動について

東部支部講演会運営委員会

委員数：影本委員長ほか4名

第3回講演会運営委員会

期日：平成18年4月5日 場所：日本船舶海洋工学会

審議事項：

- (1) 平成18年春季講演会プログラムの編成
- (2) 春季講演会タイムテーブルの確定
- (3) 講演会司会者の選定
- (4) 当日の作業分担

東部支部電子情報委員会

委員数：青山委員長外1名

第1回電子情報委員会

期日平成18年8月10日 場所：東京

上記以外は電子メールによる会議とした。

活動内容

- (1) ホームページ作成及びメールニュース発行
- (2) 会員データベース連動のメールニュース配信システム開発
- (3) グループウェア(デジエ)を利用した東部支部会務委員会データベースの構築

4. 東部支部研究会の開催

東部支部構造研究会

委員数：角研究会長ほか44名

第4回東部支部構造研究会

期日：平成18年4月21日 場所：(独)海上技術安全研究所

議題：

- (1) 腐食平板の再現試験(横国大)
- (2) 緩衝型船首構造(海技研)
- (3) 浮体式風車の構造設計(東大)
- (4) TSLのモニタリングシステム(三井)

第5回東部支部構造研究会

期日：平成18年7月21日

場所：住友重機械マリンエンジニアリング

議題：

- (1) 船舶に生ずるスロッシング問題と数値解析について(横国大)
- (2) 船舶が遭遇する海象モデルとそのシミュレーション(東海大)
- (3) 亀裂伝搬に基づく疲労強度評価システム(SHI-ME)
- (4) JBPCSRの疲労強度試験解析(ユニバーサル)

第6回東部支部構造研究会

期日：平成18年10月20日 場所：IHIMU

議題：

- (1) 疲労強度に対する板厚影響について(三井)
- (2) JBPCSRの疲労強度評価手法について(ユニバーサル)
- (3) 大型コンテナ船の実船計測結果 (IHIMU)
- (4) 造船・海運・海洋を巡る課題 (東大)

第7回東部支部構造研究会

期日：平成19年1月26日

場所：日本海事協会管理センター

議題：

- (1) 海水打ち込み、衝撃荷重に関連する研究の動向 現状と課題 (海技研)
- (2) コンテナ船のWater Brakerの強度に関する考察 (NK)
- (3) 変動振幅荷重を受ける構造体の疲労き裂伝搬シミュレーション (横国大)
- (4) 腐食ピットが発生している倉内肋骨ウェブの疲労量判定法に関する研究 (NK)

5. 産官学連携フォーラム

委員数：約30名

第3回産官学連携フォーラム

期日：平成18年4月7日 場所：霞山会館

テーマ「波浪中抵抗軽減：何をすればよいのか」

- (1) 波漂流力に打ち勝つ波浪推進とは (寺尾 裕)
- (2) 荒天を事前に予測して避けるウェザールーティングサービス (長 康平氏)
- (3) 船型による波浪中抵抗軽減対策 (廣田和義)
- (4) 荒天下の操船 (根本正昭)

第4回産官学連携フォーラム

期日：平成18年6月9日 場所：日本工業倶楽部

テーマ「船殻設計と寿命の現状と将来」

- (1) 設計構造寿命 - CSR での問題と GBS 議論でのトピックス (北村 欧)
- (2) 船社から見た船殻設計と寿命,何が必要か (川越美一)
- (3) 公的な研究機関から見た船体構造設計と研究 (吉田公一)
- (4) IACSの共通構造規則が目指したもの (有馬俊朗)

第5回産官学連携フォーラム

期日：平成18年10月6日 場所：海運クラブ

テーマ「良い船とは何か」

- (1) 良い船とは (田中良和)
- (2) A GOOD SHIP (吉田伏見男)
- (3) 愚直な船造り / 良い船を求めて (珠久正憲)
- (4) 201X年問題 (田中康夫)

第6回産官学連携フォーラム

期日：平成18年12月1日 場所：海運クラブ

テーマ「中国市場が日本造船・海運界に期待すること」

- (1) 中国の経済発展と交通インフラの整備 (柯 隆)
- (2) アジア環境エネルギー共同体航走と両国海運・造船業界の果たす役割 (田邊敏憲)
- (3) 日中環境・エネルギー・物流フォーラムの成果と今後目指すところ (湯原哲夫)
- (4) 日中の海運・造船・物流における重要な課題 (総合討論)

6. 広報活動

(1) メールニュースの発行：

平成18年4月11日「技術士補(船舶・海洋部門)取得のための講習会 平成18年度参加募集」

平成18年7月27日「OCEANS2006視察調査団のご案内」

平成19年3月17日「"水中ロボット in 辰巳'07"開催の

お知らせ」

(2) 東部支部便りの掲載：

平成18年5月(学会誌6号) 「第1回 F4会」

平成18年7月(学会誌7号) 「第2回 F4会」, 「第3回 F4会」

平成18年9月(学会誌8号) 「おもしろ船教室(東部支部)実施報告」

平成19年1月(学会誌10号) 「第4回 F4会」

(3) ホームページ更新：

東部支部ホームページでの支部便り、支部会告、イベント情報の掲載。

7. 文部科学省科学研究費補助金による事業

・平成18年8月2日、横浜みなとみらいにて青少年を対象にした「おもしろ船教室」を実施した。

8. アウトリーチ活動及び若手活性化事業

(1) 中高生を含む一般市民を対象とするアウトリーチ活動を検討し、ホームページの立ち上げ準備を行った。

(2) 「船の科学館」と連携したアウトリーチ活動として、造船所見学会等における出前講座、夏休み工作教室等を検討した。その第一段階として平成19年5月の連休中における「船の科学館」での出前講座実施を企画した。

(3) 若手優秀講演賞：支部講演会において、内容、発表ともに優秀な若手の講演に対して「若手優秀講演賞」を設け、2名の受賞者に対して支部長表彰を行うとともに授賞式後に懇親会を行った。

(4) 東部支部の若手活性化に貢献するため「水中ロボットコンベンション 07」を東部支部との共催とし、分担金を支出した。

関西支部

1. 講演会の開催

春季講演会

日時：平成18年5月25・26日(木・金)

場所：大阪大学コンベンションセンター

参加者数：延260名 講演件数：一般講演12件 OS6テーマ42件

ポスターセッション

日時：平成18年5月25・26日(木・金)

場所：大阪大学コンベンションセンター

最優秀ポスター賞：「浮流自由運動船体システムに関する研究」受賞者 伊東飛鳥・宮川智行(大阪大学)

優秀ポスター賞：「繰り返し曲げを受ける防錆耐断面梁構造の崩壊挙動に関する実験的研究」受賞者 長尾誠(大阪府立大学)

「海洋生態系におけるエクセルギーフロー」受賞者 吉村明子(大阪府立大学)

2. 総会・商議員会の開催

関西支部通常総会

日時：平成18年5月25日(木) 場所：大阪大学コンベンションセンター

出席者：関西支部商議員47名(委任状24名)

式次第(1)平成17年度事業報告

(2)平成17年度決算報告

(3)平成17年度監査報告

(4)平成18年度事業計画

(5)平成18年度予算

(6)支部規則・細則変更

(7)関西支部長賞授与

関西支部臨時総会（商議委員会）

日時：平成 18 年 9 月 15 日(金) 場所：三菱重工業神戸造船所

出席者：関西支部商議員含 46 名（委任状 30 名）

議事：(1)関西支部内規変更

(2)平成 18 年度事業進捗状況・運営委員会報告

(3)平成 18 年度支部会計中間報告

(4)関西支部規則・細則変更の承認

(5)代議員選出の件

日時：平成 19 年 1 月 26 日(金)場所：神戸クリスタルホール

出席者：関西支部商議員含 53 名（委任状 35 名）

議事：(1)平成 18 年度事業進捗状況

(2)平成 18 年度会計中間報告

(3)平成 19 年度事業計画(案)の件

(4)平成 19 年度予算(案)の件

(5)運営委員会報告

3. 委員会の開催

関西支部運営委員会

委員数：奥野支部長ほか 14 名・会務委員 13 名

日時：平成 18 年 4 月 26 日(金) 場所：中央電気倶楽部

審議事項：(1)役員・委員長・委員の委嘱と解嘱

(2)会員異動の了承

(3) 関西支部支部長賞の件

(4) 名誉・功労員推薦の件

(5) 地図情報 Web 掲載の承認

(6) 関西支部規則/細則改正の了承

日時：平成 18 年 5 月 25 日(木) 場所：大阪大学コパ ソニックセンター

審議事項：(1) 支部長賞内規変更承認

(2) 支部設置研究会（関西シニアクラブ）の承認

(3) 会員異動の了承

日時：平成 18 年 7 月 14 日(金) 場所：中央電気倶楽部

審議事項：(1) 支部規則・細則・内規修正（案）

(2) 青少年啓蒙活動（海の日関連事業）の承認

(3) 臨時総会スケジュール（案）の承認

(4)本部会務委員 2 名推薦の了承

(5) 支部会務委員（編集関係）1 名増員の了承

(6) 役員の辞任・支部長指名の承認

(7)会員異動の了承

日時：平成 18 年 9 月 15 日(金) 場所：三菱重工業(株)神戸造船所

審議事項：(1) 支部規則・細則・内規

(2) 2007/2008 年商議員候補者の件

(3) 2007 年度事業方針の件

(4) 家族会見学会の承認

(5) 携帯電話の件

(6) 代議員解任と支部推薦代議員候補者の了承

(7)会員異動の了承

日時：平成 18 年 10 月 13 日(金) 場所：中央電気倶楽部

審議事項：(1) 平成 19 年度事業計画・予算の件

(2)会員異動の了承

日時：平成 18 年 12 月 6 日(金)場所：中央電気倶楽部

審議事項：(1) 支部選出商議員の件

(2) 平成 19 年度事業計画・予算の件

(3) 「船：引合から解船まで」出版委員会設置承認

(4) 支部長賞受賞候補者推薦の件

(5) 「関西造船業界」著者推薦承認

(6)会員異動の了承

日時：平成 19 年 1 月 26 日(金) 場所：神戸クリスタルホール

審議事項：(1) 選挙手順 日程の確認

(2) 関西支部選挙管理委員会の設置承認

(3) 次期支部役員等の候補者の選出承認

(4) 2007 年度事業計画(案)・予算(案)の承認

(5) 家族会の承認

(6) 会員異動の了承

日時：平成 19 年 2 月 19 日(月) 場所：中央電気倶楽部

審議事項：(1)役員・委員選出の件

(2)平成 19 年度事業計画案・予算案の件

(3)会員異動の了承

関西支部庶務運営委員会・会務委員会

委員数：長谷川副支部長ほか 6 名・会務委員 13 名

運営委員会に関する事項を事前に検討、審議した。

関西支部会務委員会

委員数：大塚幹事ほか 12 名

支部長を補佐し、支部運営の総務、会員対応などに関する事項を実施した。

情報システム委員会

委員数：小林委員長ほか 8 名

メールによる情報交換およびホームページとメーリングリストの管理運用を実施した。

編集委員会関西地区会合

委員数：高木代表幹事ほか 14 名

関西支部に属する編集委員の地区会合を支援した。

日時：平成 18 年 4 月 27 日(金) 場所：新大阪丸ビル

日時：平成 18 年 6 月 27 日(火) 場所：新大阪丸ビル

日時：平成 18 年 9 月 5 日(火) 場所：新大阪丸ビル

日時：平成 18 年 10 月 30 日(月) 場所：新大阪丸ビル

日時：平成 19 年 1 月 10 日(水) 場所：川崎造船海友館新館

日時：平成 19 年 3 月 20 日(火) 場所：新大阪丸ビル

関西支部研究運営委員会

委員数：池田・仁瓶運営委員ほか 11 名

日時：平成 18 年 7 月 5 日(水) 場所：大阪中央電気倶楽部

本部の研究企画委員会、分野別研究会と連携し、研究活動に関する事項について計画・審議・実施した。

支部研究会・支援研究会を所掌する。

関西支部講演会運営委員会

委員数：池田委員長ほか 15 名

日時：平成 18 年 4 月 20 日(木)

場所：大阪府立大学会議室（兼日本船舶海洋工学会講演会運営委員会）

日時：平成 18 年 8 月 29 日(火)

場所：大阪府立大学会議室（兼日本船舶海洋工学会講演会運営委員会）

日時：平成 18 年 10 月 24 日(火)

場所：大阪大学会議室(秋季講演会ポスターセッション実行委員会)

日時：平成 18 年 11 月 17 日(金)

場所：神戸国際会議場（兼日本船舶海洋工学会講演会運営委員会）

関西支部規則/細則検討 WG

委員数：修理運営委員ほか 3 名

日時：平成 18 年 6 月 23 日

場所：中央電気倶楽部

関西シニアクラブ

世話人：姫野世話人代表ほか 8 名

日時：平成 18 年 6 月 2 日

場所：大阪大学会議室 参加者：9 名

総会・交流会

日時：平成 18 年 7 月 17 日

場所：神戸クリスタルタワー 参加者：71 名

4. 研究会の開催

設置研究会

(1)関西船舶流体力学研究会 (KFR)

第 289 回例会・第 16 回「フューチャ・ナビ」礼拝イベント

日時：平成 18 年 5 月 9 日

場所：大阪大学附属図書館吹田分館 参加者 67 名

第 290 回例会・研究運営委員会と共催 PCC・PCTC シンポジウム

日時：平成 18 年 11 月 24 日

場所：大阪府立大学学術交流会館 参加者 150 名

第 291 回例会 - KFR Jr. & KSSG Jr. 合同企画「フューチャ・ナビ」礼拝「就職先として造船業を考える」

日時：平成 19 年 1 月 16 日

場所：大阪府立大学学術交流会館 参加者 134 名

第 292 回例会 - 特別講演「船舶工学科と海事科学部での教育と研究」定兼 廣行氏（神戸大学）

日時：平成 19 年 2 月 5 日

場所：川崎造船海友館 参加者 42 名

(2)KSSG

テーマ：「造船構造設計者のための有限要素法」

第 1 回委員会 日時：平成 18 年 7 月 21 日

場所：(株)CRC ヲーゾックス 参加者：30 名

(株)CRC ヲーゾックス に市販の最適化プログラムの説明とデモを実施して頂き、最適化計算の現状を把握した

第 2 回委員会 日時：平成 19 年 2 月 6 日

場所：九州大学 21 世紀交流プラザ 参加者：43 名

KSSG・西部支部共催「造船構造設計者のための有限要素法」

5. 新年特別講演会の開催

日時：平成 19 年 1 月 26 日

場所：神戸クリスタルホール 参加人数 49 名

「海藻養殖と海洋環境」眞鍋武彦氏 ((財)国際エマックスセンター技術アドバイザー)

6. シンポジウムの開催

(1)「おれんじホープ」シップ・オブ・ザ・イヤー授賞記念 授賞船

および建造造船所見学会

日時：平成 18 年 10 月 27～29 日

場所：大阪南港～今治造船～大阪南港 参加人数 61 名

(2)テーマ：PCC・PCTC シンポジウム (KFR と共催)

日時：平成 18 年 11 月 24 日

場所：大阪府立大学学術交流会館 参加者 150 名

(3)テーマ：「造船構造設計者のための有限要素法」(KSSG・西部支部共催)

日時：平成 19 年 2 月 6 日

場所：九州大学 21 世紀交流プラザ 参加人数 43 名

7. 交流会の開催

(1)見学会・家族会

日時：平成 18 年 4 月 15 日

「威臨丸で鳴門観潮」 参加者：60 名

日時：平成 18 年 10 月 7 日

「和歌浦で地引き網&バーベキュー」 参加者：57 名

日時：平成 18 年 11 月 11 日

「高石市大阪ガス科学館」 参加者：21 名

日時：平成 19 年 1 月 27 日

「兵庫県漁業協同組合連合会のり研究所」 参加者：24 名

(2)会員交流会

日時：平成 18 年 5 月 25 日

場所：大阪大学内レストラン・ラ・シエナ 参加者：117 名

日時：平成 18 年 11 月 16 日

場所：神戸花鳥園 参加者：255 名

日時：平成 19 年 1 月 26 日

場所：神戸クリスタルホール 参加者：56 名

(3)社会貢献活動

日時：平成 18 年 9 月 17 日

「国際クリーンアップ・キャンペーン in 須磨」参加者：16 名

8. 広報活動

(1)会員拡大の施策

春季講演会論文集を低学年の学生に配布し入会の勧誘を行った。

学生のための入会勧誘用パンフレットを作成中

(2)支部メールニュース配信の実施

9. 「海の日」記念事業

(1)開催機関：大阪大学

日時：平成 18 年 7 月 17 日

テーマ：「船舶海洋試験水槽の公開」

(2)開催機関：大阪府立大学

日時：平成 18 年 8 月 25・26 日

テーマ：青少年サマーセミナー「知ろう！遊ぼう！サイフォンの原理」

(3)開催機関：神戸大学

日時：平成 18 年 8 月 22・23 日

テーマ：体験型海洋セミナー「さあ、君も船をうごかしてみよう！」

(4)開催機関：海技大学校

日時：平成 18 年 7 月 24 日

テーマ：施設公開及び体験航海(芦屋本校)

日時：平成 18 年 8 月 2 日

テーマ：施設公開(児島分校)

西部支部

1. 講演会の開催

(1)平成 18 年度西部支部春季講演会を平成 18 年 5 月 11 日、12 日に、下関市のシーモールパレスにおいて開催した。学術講演 29 編の講演を二日間に涉って行い出席者約 110 名、懇親会参加者約 90 名であった。

(2)平成 18 年度本部主催秋季講演会が関西支部担当で、平成 18 年 11 月 16 日、17 日に、神戸市の神戸国際会議場で開催された。学術講演 (一般講演 95 編、オーガナイズセッション講演 75 編) 特別講演「船舶行政の現状と今後の取組み」(伊藤 茂氏)、ポスターセッション等が行なわれた。講演会には延べ 400 名を超える多くの会員が参加し、また、懇親会も催され盛会裏に終了した。

となって、日本船舶海洋工学会の活動を主導して行けるよう、活発な活動を期待する旨の挨拶があった。

3. 委員会の開催

(1) 西部支部運営委員会

第1回 平成18年5月12日下関市シーモールパレスで開催された。理事会報告、平成18年度事業計画・予算案の確認、業務担当運営委員からの報告、秋季講演会運営委員からの報告等がなされた。

第2回 平成18年7月24日九州大学で開催された。理事会報告、業務担当運営委員からの報告、広報編集委員会報告、電子情報委員会報告、西部性能・構造研究会の報告が行なわれ質疑・応答がなされた。

第3回 平成18年12月6日九州大学で開催された。理事会報告がなされた。西部支部商議員選挙結果が報告された。平成19年度西部支部事業計画・予算案について討議された。講演会運営委員会より秋季講演会の活動報告等が報告された。さらに、広報編集委員会報告、電子情報委員会報告、業務担当運営委員からの報告、西部性能・構造研究会の報告が行なわれた。

第4回 平成19年3月27日九州大学で開催された。理事会報告がなされた。西部支部支部長選挙結果ならびに支部推薦理事・支部監事選挙結果報告がなされた。平成18年度決算報告、監査報告がなされ了承された。平成19年度西部支部事業計画・予算案について討議された。講演会運営委員会より秋季講演会の活動報告等が報告された。さらに、広報編集委員会報告、電子情報委員会報告、業務担当運営委員からの報告、西部性能・構造研究会の報告が行なわれた。功労員推薦の件が審議され了承された。

(2) 西部支部会務委員会

新開副支部長が主催しメールによる連絡で審議が行なわれた。

(3) 講演会運営委員会

安澤講演会運営委員長が主催し、メールによる連絡で審議が行なわれた。

(4) 西部支部広報編集委員会

安澤講演会運営委員長が主催し委員会を2回九州大学で開催した。またメールによる連絡で審議が行なわれた。

(5) 西部支部電子情報委員会

古川電子情報委員長が主催し、メールによる連絡で審議が行なわれた。

4. 西部支部研究会

(1) 西部支部構造研究会

藤久保会長の下で、第4回研究会を平成18年6月27日に名村造船所にて開催、第5回研究会を平成18年10月30日に三菱長崎造船所にて開催、第6回研究会を平成19年1月31日に大島造船所にて開催した。西部支部・関西支部合同シンポジウム「造船構造設計者のための有限要素法」を平成19年2月6日九州大学にて開催した。金沢工大 深沢塔一教授、広大 藤久保昌彦教授、三井造船 稲田陽一氏、九大 吉川孝男教授の講述がなされた。造船各社、船級協会、大学を中心に52名の参加があり盛会裏に終了した。

(2) 西部支部性能研究会

柏木会長の下で、第4回研究会を平成18年6月15日に九州大学にて開催した。POD推進に関連して、海技研 佐々木紀幸氏、海技研 日野孝則氏、三菱長崎 武田信玄氏が講演を行なった。第5回研究会を平成18年10月27日、28日に、九州大学応用力学研究所（国際）研究集会「水波と浮体の相互干渉に関する力学」の協賛による開催を行なった。第6回研究会を平成18年12月7日、8日に、九州大学応用力学

研究所（国際）研究集会「移動境界まわりの強非線形流れの解析」の協賛による開催を行なった。平成18年度「夏の学校」を平成18年8月31日～9月2日に九州大学応用力学研究所にて開催した。三井造船 小林正典氏、日本造船技術センター 鷲尾祐秀氏、西部支部長 福島昭二氏が特別講演を行い、九大 安東 潤教授、九大応研 柏木 正教授が講義を行なった。

5. シンポジウム・講習会・見学会・家族会等の開催

3支部共通のイベントとして、「おもしろ船教室(西部支部)」を平成18年8月18日に、呉市海事歴史科学館「大和ミュージアム」にて小学生高学年90名を対象に実施した。「船舶海洋プロジェクトのマネジメント力向上のためのシンポジウム」を、平成18年9月22日に九州大学にて開催した。「豪華客船の開発・建造のプロジェクトマネジメント」(三菱重工業 福島昭二氏、斧口淑郎氏)、「地球深部探査船“ちきゅう”の開発・建造のプロジェクトマネジメント」(JAMSTEC 岡田裕氏、三井造船 小澤宏臣氏、三菱重工業 橋本博之氏)、「プロジェクトマネジメントの勘所」(三菱重工業 福島昭二氏)の3件の講演とパネルディスカッションが行われた。参加者はシンポジウム87名、懇親会66名であり、好評であったため他支部からの要望があれば開催場所を変えての開催も検討することが確認された。「進水式見学会・家族会およびシップ・オブ・ザ・イヤー2005受賞作品紹介イベント」を三菱重工業(株)下関造船所で開催し、105名の参加があり盛会裏に終了した。「トヨタ自動車九州株式会社宮田工場家族見学会」を平成18年11月3日に実施し、80名の参加者があり親睦を深めることができ好評であった。

6. 広報活動など

西部支部では、西部支部会員の活動報告、西部支部地区の造船所での建造船の紹介、西部支部におけるお知らせなどの内容のメールマガジンを2ヶ月に1回のペースで配信している。西部支部会員の良いコミュニケーションの場を提供している。

C 研究委員会報告

研究企画委員会

委員会名：研究企画委員会

委員長名：平山次清、(副委員長 藤久保昌彦)

委員の現員数：14

委員会の開催数：3

第4回委員会

期日：平成18年5月13日

場所：日本船舶海洋工学会 会議室

審議事項：

(1)研究会の名称変更(関西支部 KFR 研究会を関西支部 関西船舶海洋流体力学研究会(略称 KFR)に変更)

(2)研究会・研究委員会の運営について

(3)各研究会等の剰余金の現状について

(4)平成18年度の予算配分について

(5)シンポジウムテキスト電子化事業(複製禁止問題)

(6)船技協との連携について

(7)研究関係 DB 整備について

(8)研究活性化アクションプランについて

(9)海洋工学シンポジウムに関する海洋工学会との連携について

第5回委員会

期日：平成18年10月6日

場所：日本船舶海洋工学会 会議室

審議事項：

(1)外部資金による調査研究事業の運用に関する内規

(2)船技協から依頼の H18 研究シーズ調査の依頼先について

(3)研究会・研究委員会 DB 開設についての準備進捗状況

(4)研究委員会等会計管理要領が作成された

(5)第20回海洋工学シンポジウムに開催について

(6)アクションプランの一つとして性能・運動分野の「夏の学校」を全国版とする計画について

(7)講演会における関連 OS を並列開催する場合の問題点について

第6回委員会

期日：平成19年3月7日

場所：日本船舶海洋工学会 会議室

審議事項：

(1)終了した研究委員会の最終報告書体裁について

(2)研究委員会の予定外終了について(DPS 研究委員会)

(3)外部資金による調査研究の受託

(4)海事工学3学会シンポジウムのテーマ“省エネ”と研究ストラテジー研究委員会の戦略について

(5)平成19年度事業と予算について

(6)プロジェクト研究委員会2件設置申請(船体艤装工事の技能伝承研究委員会、塗装品質と船殻工作品質の関係に関する研究委員会)

(7)研究会・研究委員会 DB の問題点について

(8)委員交代(9)次期委員会への引継ぎ事項等(分野研究企画部会の位置付け見直し等)

特記すべき活動

・理事会承認を経て総会に諮り、研究交流会の呼称を研究会と改めた

・外部資金導入の内規を整備し、船技協より調査研究を、旭洋造船(株)より P1 研究会参加の申請を受け、それぞれ 300 万円、60 万円にて受託した。

・活性化のためのアクションプランとして運動性能研究会提案

の“夏の学校”を選定した。

分野研究企画部会

委員会名：性能・運動分野企画部会

委員長名：平山次清

委員の現員数：10名

委員会の開催数：3回

第4回部会

期日：平成18年6月21日

場所：日本船舶海洋工学会 会議室

審議事項：

(1)当該分野における重点課題の提案と検討

(2)当該分野のアクションプランとして若手技術者向けの“夏の学校”を選定した。

第5回部会

期日：平成18年10月11日

場所：倉敷シーサイドホテル 会議室

審議事項：

(1)当該分野における重点課題の提案と検討

(2)若手技術者向けの“夏の学校”実施計画案の審議

(3)船技協からの調査依頼について

(4)P-1 研究委員会における外部資金受け入れについて

第6回部会

期日：平成19年3月7日

場所：日本船舶海洋工学会 会議室

審議事項：

(1)委員の交代について

(2)ストラテジー研究委員会提案の検討(CFD 関係)

(3)次期部会への引継ぎ事項

委員会名：構造・強度、材料・溶接分野研究企画部会

委員長名：大坪英臣

委員の現員数：10名

委員会の開催数：1回

第4回委員会

期日：平成19年3月29日

場所：日本造船工業会会議室

審議事項：

(1)CSR 研究委員会の後継委員会の立ち上げについて

(2)委員の交代について

(3)分野研究企画部会のありかたについて

特記すべき活動

(1)極厚板大入熱溶接部強度検討 FS 委員会から IACS への意見表明

(2)造船構造設計者のための有限要素法シンポジウムの開催

委員会名：工作分野 研究企画部会

委員長名：大沢直樹

委員の現員数：9名

委員会の開催数：5回

第3回委員会

期日：平成18年4月21日

場所：SHIME、横須賀

審議事項：

(1)PJT 活動進捗について

(2)工学会誌の活動報告の内容について

(3)6月実施の全体会議の審議内容について

(4)平成17年度、平成18年度会計のについて
(5)JSQS販売業務の学会事務局への移管について

第4回委員会

期日：平成18年6月15日

場所：三菱重工業、立神

審議事項：

- (1)塗装品質検討の進め方について
- (2)活性化アクションプランについて
- (3)研究ストラテジー参加者について

第5回委員会

期日：平成18年11月20日

場所：SHIME、横須賀

審議事項：

- (1)PJT活動進捗について
- (2)平成19年度のPJ研究委員会について
- (3)平成19年度の研究会について

第6回委員会

期日：平成18年12月5日

場所：三菱重工業、立神

審議事項：

- (1)平成19年度のPJ研究委員会について
- (2)平成19年度の研究会について
- (3)RINA参加について

第7回委員会

期日：平成19年2月23日

場所：川崎重工業、東京

審議事項：

- (1)PJT活動進捗について
- (2)平成19年度のPJ研究委員会について
- (3)平成19年度の研究会について
- (4)研究会の内規改訂について

)成果の発展性と今後の課題

「鋼船工作法」は造船の工作法を系統たてて記述した唯一の著書であり、日々の生産活動の参考書や新人の勉強資料として役立てられている。その観点から、数年前から最新情報を反映させ、より実用的にすべく、「鋼船工作法」の改訂作業を行っている。本委員会では未だ改訂がされていない最後のパーツの改訂取り纏めとなる。従来から「鋼船工作法」は、紙の著書として取り纏めていたが、最近ではその編集結果はデジタル化されている。その結果、造船実務者は文章の利用の際には色々な使い方ができるようになり、また委員会の定期的な改訂編集作業も効率的になった。

委員会名：設計・艦装分野 研究企画部会

委員長名：浦 環

委員の現員数：11名

委員会の開催数：1回

第2回委員会

期日：平成18年11月16日

場所：神戸国際会議場

審議事項：

- (1)研究企画委員会の報告
- (2)設計・艦装分野研究企画部会の活性化 Action Plan について
- (3)学会からの活動支援金について
- (4)各部会の活動と今後の活動計画の報告
- (5)大学から造船所への依頼(Internship 開催等)について

特記すべき活動

造船設計・生産技術研究会 第8回シンポジウムの計画

1)テーマ：艦装設計の将来ビジョン(更なる顧客満足を目指して)

2)開催日時：平成19年9月20日(木)10:30~17:00

3)場所：九州大学西新プラザ

4)講演内容：

- ・船主から見た将来艦装技術
- ・もう一つのCSR(船舶環境証書)について
- ・塗装性能基準の実施について
- ・新しい鉄艦装品の開発(メーカ)
- ・新しい管艦装品の開発(メーカ)
- ・P-5貨物油荷役遠隔制御装置設計基準
- ・P-3艦装品強度

委員会名：海洋工学・海洋環境分野 研究企画部会

委員長名：影本 浩

委員の現員数：11名

委員会の開催数：3回

第4回部会

期日：平成18年7月28日

場所：日本船舶海洋工学会

審議事項：

(1)研究会、project/strategy委員会、外部学協会等の活動状況把握

(2)海洋工学シンポジウムを日本海洋工学会と連携して実施する件について

(3)部会運営について

(4)新規project委員会

(5)新委員について

第5回部会

期日：平成18年12月6日

場所：日本船舶海洋工学会

審議事項：

(1)研究会、project/strategy委員会、外部学協会等の活動状況把握

(2)海洋工学シンポジウム

(3)新規project委員会

(4)海洋工学・海洋環境分野の今後の活動について

第6回部会

期日：平成19年3月28日

場所：日本船舶海洋工学会

審議事項：

(1)研究会、project/strategy委員会、外部学協会等の活動状況把握

(2)次期体制について

(3)新規project、strategy委員会

特記事項

(1)OCEANS Asia-Pacific2007における海洋環境工学セッションの開催とEAMEN(East Asian Marine Environment Network)の結成

(2)海洋のリモートセンシング・ワークショップの開催

(3)第19回海洋工学シンポジウム(Techno-Oceanと共同開催)の開催

(4)東アジア海洋環境モデル研究委員会、海洋におけるプラットフォーム技術検討プロジェクト研究委員会の設置

委員会名：情報技術研究企画部会

委員長名：大和 裕幸

委員の現員数：10名

委員会の開催数：3回

第3回委員会

期日：平成18年5月8～9日 場所：名村造船所

審議事項：

- (1) 情報技術研究企画部会の体制、運営法
- (2) IMDC など国際会議動向
- (3) DSM に関する技術討議について
- (4) 学会論文への英文論文の掲載について
- (5) 機関誌 93号特集テーマ「e-ドキュメント」の企画
- (6) 機関誌 94号特集の審議

第4回委員会

期日：平成18年9月8日

場所：東京大学柏キャンパス

審議事項：

- (1) Sharefast の検討について
- (2) 研究企画委員会の報告について
- (3) 運営方法について
- (4) H18 会計中間報告

第5回委員会

期日：平成18年12月7～8日

場所：IHI-MU 呉工場並びに大和ミュージアム

審議事項：

- (1) ICCAS2007 への参加について
- (2) 造船ラインや造船業情報化に関する技術討議
- (3) 機関誌 96号、97号の企画について

特記すべき活動：

- (1) ICCAS 2007 への対応

平成19年9月開催のICCAS に対して7件アブストラクトの提出をした。日本の窓口として対応した。2名の実行委員を出している。

- (2) 機関誌「すうちせいぎょ」の発行

第93号：「e-ドキュメント」

第94号：「誤昨ゼロへの取り組み」

第95号：「携帯電話は造船業につかえないか？」

プロジェクト研究委員会

委員会名：P1 水上船舶の潜水避航実現可能性に関する研究委員会

委員長名：平山次清

委員の現員数：10名

委員会の開催数：2回

第3回委員会

- (1) オブザーバー紹介
- (2) 第2回議事録確認・承認
- (3) 科研費課題の審査結果説明
- (4) 外部資金による委員会等について
- (5) 各委員の検討状況報告
 - ・ SSS(Submersible Surface Ship)の位置づけ説明
 - ・ 横浜国立大学における SSS に関するこれまでの研究経緯報告ならびに本年度の研究の進捗状況の報告
 - ・ 北太平洋航路における SSS のウェザールーティングに関する検討
 - ・ SSS の運動に関連する文献調査結果等の説明
 - ・ ウォータバッグによる清水輸送に関わる問題への取り組み状況報告
- (6) 情報交換
 - ・ SSS の動力源として可能性のある燃料電池に関する情報提供

- ・ 飛行船搭乗報告
- ・ 会社資料に基づく説明(オブザーバ)

第4回委員会

期日：平成19年3月15日

場所：横浜国立大学 船舶海洋工学棟 3F 会議室

審議事項：

- (1) 前回議事録確認・承認
- (2) 途中経過報告および次年度計画(各委員)
- (3) その他

特記すべき活動：

- ・ H.19 年度新規科学研究費補助金課題(基盤研究 A)「波浪影響を避ける新コンセプト船システム実現のための研究(4年計画、代表：平山次清教授)」応募
- ・ 相場裕道氏(旭洋造船)委員就任

委員会名：P2 鋼船工作法改訂研究委員会

委員長名：青山和浩

委員の現員数：39名

委員会の開催数：10回

全体会議

期日：平成18年6月15日

場所：三菱重工業、立神

審議事項：

- (1) 平成17年度、平成18年度、会計報告
- (2) 3件のPJT活動報告
- (3) 特別講演(地球深部探査船“ちきゅう”について)
- (4) 特別講演(福地委員長)
- (5) 工場見学

PJT1委員会

開催(期日：平成18年9月28,29日、場所；住重横須賀)

開催(期日：平成18年12月14,15日、場所；佐世保)

開催(期日：平成19年3月8,9日、場所；三井千葉)

審議事項：

- (1) 新版鋼船工作法、第1巻(総論)の見直し作業

- (2) 各社の工作改善の紹介

- (3) 工場見学

PJT2委員会

開催(期日：平成18年9月14,15日、場所；川崎坂出)

開催(期日：平成18年12月7,8日、場所；三菱立神)

開催(期日：平成19年3月15,16日、場所；USC津)

審議事項：

- (1) 新版鋼船工作法、第6巻(資料編)の見直し作業

- (2) 各社の工作改善の紹介

- (3) 工場見学

PJT3委員会

開催(期日：平成18年9月21,22日、場所；USC舞鶴)

開催(期日：平成18年12月21,22日、場所；川崎神戸)

開催(期日：平成19年3月8,9日、場所；サノヤス)

審議事項：

- (1) 新版鋼船工作法、第5巻(工場配置と設備)の見直し作業

- (2) 各社の工作改善の紹介

- (3) 工場見学

成果の発展性と今後の課題

- ・ 「鋼船工作法」は造船の工作法を系統たてて記述した唯一の著

書であり、日々の生産活動の参考書や新人の勉強資料として役立てられている。

- ・数年前から最新情報を反映させ、より実用的にすべく、「鋼船工作法」の改訂作業を行っている。本委員会では未だ改訂がされていない最後のパーツの改訂取り纏めとなる。
- ・従来から「鋼船工作法」は、紙の著書として取り纏めていたが、最近ではその編集結果はデジタル化されている。その結果、造船実務者は文章の利用の際には色々な使い方ができるようになり、また委員会の定期的な改訂編集作業も効率的になった。

委員会名：P3 艦装品の強度研究委員会

委員長名： 井上義行

委員の現員数：31名

委員会の開催数：5回

第8回委員会

期日：平成18年6月21日

場所：横浜国立大学

審議事項：

(1)研究報告書第1回ドラフト/SD103での審議結果及び各社コメントの内容確認及び対応について協議

(2)SD104に向けた改正ドラフト案の審議

書面審議

期日：平成18年9月

審議事項：

(1)係船金物強度の表及び金物選定例の審議

(2)P-100改正ドラフト審議

第9回委員会

期日：平成18年9月16日

場所：名村造船

審議事項：P-100改正ドラフト審議

書面審議

期日：平成19年2月

審議事項：P-100改正ドラフト/SD104での審議結果及び各社コメントの内容確認及び対応について協議

第10回委員会

期日：平成19年3月16日

場所：三菱重工神戸

審議事項：最終報告書審議

主な成果：

成果の概要

- ・艦装品の強度要件に掛かる規則要求内容を纏めた。
- ・代表的な艦装品について、強度計算式を纏めた。
- ・計算例を示して設計者の指針とした。

目標達成度

・各社から寄せられたコメントに対応した形で最終報告書を取りまとめ、年度末に部会報告する予定。

成果の発展性と今後の課題

曳航・係留設備の強度要件についてはIACS UR A2(Rev.2)として提示されているが、いまだに設計荷重の解釈が各協会で行なっている。今後の動きをウオッチし、適宜、フォローアップすることが必要。

委員会名：P4 JSQS精度標準研究委員会

委員長名： 篠田岳忠

委員の現員数：19名

委員会の開催数：3回

幹事会開催数：4回

本委員会では、艦装工作に関するJSQS精度標準の改訂に伴い、鉄艦装1、鉄艦装2、管艦装、木艦装、装置艦装の5つのワーキンググループを設置してグループリーダー主導の基に活動を行った。

審議事項：

(1)標準範囲、許容限界に関する技術評価

(2)改訂対象・項目の精査

(3)編集作業に伴うコンテンツの電子化の推進

(4)発行および出版に関する審議

特記すべき活動：

平成19年4月に平成19年版JSQS精度標準(艦装関係)を発行することとなった。

委員会名：P6 海洋の大規模利用に対する包括的環境影響評価研究委員会

委員長名： 大塚耕司

委員の現員数：18名

委員会の開催数：6回

第5回委員会

期日：平成18年4月21日

場所：東京大学生産技術研究所

審議事項：

(1)報告書の配布計画について

(2)H17年度事業報告・会計報告

(3)H18年度事業計画案・予算案について

(4)第2回IMPACTセッションについて

(5)包括的環境影響評価手法について

第6回委員会

期日：平成18年6月28日

場所：大阪府立大学工学部

審議事項：

(1)報告書の配布について

(2)H18年度事業計画・予算について

(3)第2回IMPACTセッションについて

(4)包括的環境影響評価手法について

第7回委員会

期日：平成18年8月7日

場所：東京大学柏キャンパス

審議事項：

(1)第2回IMPACTセッションについて

(2)包括的環境影響評価手法について

第8回委員会

期日：平成18年9月7日

場所：ホテル知床

審議事項：

(1)包括的環境影響評価手法について

(2)第2回IMPACTセッションについて

羅臼町役場訪問、羅臼海洋深層水取水施設見学(9月8日)

第9回委員会

期日：平成18年10月6日

場所：東京大学本郷キャンパス

審議事項：

(1)第2回IMPACTセッションについて

(2)包括的環境影響評価手法について

(3)IMPACTシンポジウムについて

第10回委員会

期日：平成18年12月22日

場所：東京大学柏キャンパス

審議事項：

(1)アドバイザーへのヒアリング(枝廣淳子氏)

(2)包括的環境影響評価手法について

(3)IMPACTシンポジウムについて

特記すべき活動

・第2回IMPACTセッションの開催

期日：平成18年10月20日

場所：神戸国際展示場

講演1：エコロジカル・フットプリントの概念と技術のサステナビリティ評価への応用(和田喜彦 同志社大学経済学部助教授)

講演2：海洋肥沃化装置のエコロジカル・フットプリント評価(大塚耕司 大阪府立大学大学院工学研究科助教授)

講演3：二酸化炭素海洋隔離の生物影響評価(喜田潤 海洋生物環境研究所実証試験場主任研究員)

講演4：地球温暖化のリスクと社会コストの評価：不確実性と応用(板岡健之 みずほ情報総研環境・資源エネルギー部主任研究員)

総合討論：海洋の大規模利用はどれだけ地球環境にIMPACTを与えるのか? 司会：大塚耕司

・第1回IMPACTシンポジウムの開催

期日：平成19年3月20日

場所：東京大学本郷キャンパス

基調講演1：包括的生態リスク評価の考え方と可能性(田中嘉成 国立環境研究所環境リスク研究センター生態リスク評価研究室長)

基調講演2：順応的管理と水産資源管理への応用

(勝川俊雄 東京大学海洋研究所海洋生物資源部門助手)

IMPACT報告1：海洋大規模利用の必要性和包括的環境影響評価III(大塚耕司 大阪府立大学大学院工学研究科助教授)

IMPACT報告2：CO₂海洋隔離のIII(大宮俊孝 東京大学大学院新領域創成科学研究科M2生)

IMPACT報告3：メタンハイドレート開発のIII(野尻智洋 東京大学大学院新領域創成科学研究科B4生)

総合討論：包括的環境影響評価手法のあり方 司会：佐藤徹

委員会名：P7 海中技術研究委員会

委員長名：田村兼吉

委員の現員数：16名

委員会の開催数：2回

第3回委員会

期日：平成18年7月30日

場所：東京大学

審議事項：

(1)目次案作成及び執筆案作成

第4回委員会

期日：平成19年3月28日

場所：東京大学山上会館

審議事項：

(1)最終目次案作成

(2)執筆状況報告

特記すべき活動：

3月28日は、第4回海洋工学研究会と合同開催で、編集中の本の内容について報告した。

委員会名：P8 大規模海上浮体施設の構造信頼性および設計基準研究委員会

委員長名：藤久保昌彦

委員の現員数：18名

委員会の開催数：4回

第3回委員会

期日：平成18年6月14日

場所：東京大学工学部3号館

審議事項：

(1)これまでに実施された信頼性検討例の紹介

(2)FTA 試行結果の審議

・大規模浮体式空港のFTA 検討例

・浮体式風力発電施設のFTA 検討例

(3)大規模浮体式空港の検討範囲に関する審議

・大規模浸水、構造破壊、火災、漂流

第4回委員会

期日：平成18年8月9日

場所：東京大学工学部3号館

審議事項：

(1)第6回構造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウムの紹介と、論文投稿に関する審議

(2)メガフロートの火災に関するリスク評価についての審議

(3)浮体の構造解析ツールについての審議

(4)過去の自己解析の紹介と、浮体構造物の設計事例に関する紹介

第5回委員会

期日：平成18年10月4日

場所：東京大学工学部3号館

審議事項：

(1)大規模浮体式空港のFTA、FMEA について作業分担についての審議

(2)検討事例の紹介(浸水、火災、構造破壊)

第6回委員会

期日：平成18年12月20日

場所：東京大学工学部3号館

審議事項：

(1)第6回構造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウム投稿論文に関する審議

・大規模浮体式空港の構造破壊、目標安全性の設定

・洋上風力発電

(2)今後の委員会運営に関する審議

特記すべき活動

・第6回構造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウムにおいてオーガナイズド・セッションを設置

活動データ

研究発表件数(文献リストを添付)8件

外部資金獲得実績 特になし

主な成果

成果の概要

・超大型浮体式構造物の信頼性解析における、基礎資料の作成

・超大型浮体式空港のフォールト・ツリーの作成

・浮体式風力発電施設のフォールト・ツリーの作成

目標達成度

リスクモデルの構築，目標安全性レベルの設定が予定より遅れ気味であり。来年度は鋭意進めたい。

成果の発展性と今後の課題

- ・浮体式構造物の構造の破壊や、複数の事象を組み合わせた信頼性解析を行うことで、超大型浮体式構造物に関する、総合的な信頼性解析を行うことができる。

今後の課題：

- ・詳細な構造モデルを使用した、定量的な解析の実施
- ・超大型浮体式構造物に関する安全性基準の策定

委員会名： P9 自律型無人ボート研究委員会

委員長名： 山本郁夫

委員の現員数： 5名

委員会の開催数： 1回

第2回委員会

期日：平成18年11月17日

場所：神戸国際会議場会議室

審議事項：

- (1)委員長挨拶
- (2)国内外の活動状況の説明
- (3)今後の研究取り組みについての協議
 - ・無人ボートの国内レース試行に向けて、ルール作りを行うこととした。
 - ・国内レース参加の大学・研究機関・教育機関等を募ることとした。

特記すべき活動

- ・自律型無人船競技ルールを作成した。
- ・国内レース開催に向けての関係実施機関へのアプローチを行った。

委員会名：P10 極厚板大入熱溶接部強度検討 FS 委員会

委員長名： 豊貞雅宏

委員の現員数 27名

委員会の開催数 8回

第3回委員会

期日：平成18年1月6日

場所：三菱重工株式会社本社ビル

審議事項：

- (1) 委員会設置の背景と目的の確認
- (2) 審議事項に関連する研究開発事例紹介
- (3) 研究方針に関するフリーディスカッション
- (4) 疲労き裂成長に関する Case Study 結果に関する議論

第4回委員会

期日：平成18年3月6日

場所：三井造船株式会社 本社

審議事項：

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 疲労き裂成長に関する Case Study 結果に関する議論
- (3) 本委員会終了後の研究助成申請の方針に関する議論

第5回委員会

期日：平成18年5月24日

場所：川崎重工株式会社 本社

審議事項：

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 疲労き裂成長に関する Case Study 結果に関する議論
- (3) 船体構造溶接部の非破壊検査要領の紹介及び極厚板溶接継手への適用に関する問題点等の議論
- (4) 船級規則が要求する鋼材使用区分に関する情報交換等
- (5) 本委員会終了後の研究助成申請の方針に関する議論

第6回委員会

期日：平成18年9月4日

場所：日本海事協会 管理センター

審議事項：

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 疲労き裂成長に関する Case Study 結果に関する議論
- (3) 非破壊検技術の向上すべき項目に議論
- (4) 破壊靱性値とシャルピー値の相関に関する検討
- (5) 許容初期欠陥寸法及び就航時検査で見出すべき欠陥寸法に関する議論

第7回委員会

期日：平成18年10月5日

場所：三菱重工株式会社本社ビル

審議事項：

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 疲労き裂成長に関する Case Study 結果に関する議論
- (3) 変動振幅荷重を受ける構造体の疲労き裂成長シミュレーション
- (4) 本委員会から IACS へのレター内容について
- (5) 報告書目次案

第8回委員会

期日：平成18年11月21日

場所：IHIMU 本社

審議事項：

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 報告書原稿案（疲労き裂成長に関する検討部分）の審議
- (3) 報告書原稿案（極厚板溶接部非破壊検査技術の現状）の審議
- (4) ハッチサイドコーミング溶接部からの脆性破壊発生防止のための検討課題
- (5) T継手部の脆性き裂伝播停止挙動に及ぼす未溶着寸法の影響
- (6) 本委員会から IACS へのレター内容について
- (7) 審議事項に関連する内容の文献紹介

第9回委員会

期日：平成19年1月10日

場所：東京大学 工学部3号館

審議事項：

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 報告書原稿案の審議
- (3) 本委員会から IACS へのレター内容について

第10回委員会

期日：平成19年2月13日

場所：新日本製鐵 代々木研修センター

審議事項：

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 報告書原稿案の審議
- (3) 本委員会から IACS へのレター内容について

特記すべき活動

- ・活動報告書を作成し、必要に応じて公開することにした。
- ・本委員会の活動は、船体強度安全性に関して極めて重要かつ緊急の案件であるということを念頭に、委員会活動の成果と極厚板適用コンテナ船の安全性に関する検討を行うよう、IACS に対してレターを送付した。

委員会名：P12 船体機関室周辺の狭隘タンク振動設計指針策定に関する研究委員会

委員長：安澤幸隆

委員の現員数：17名

委員会の開催数：3回

第1回委員会

期日：平成18年6月2日

場所：九州大学箱崎キャンパス船舶海洋システム工学教室

審議事項：

- (1)委員長挨拶
- (2)委員会の組織と運営の検討
- (3)研究会の目的と進め方
- (4)狭隘タンクの損傷、アンケート調査表 案の紹介
- (5)技術資料の紹介

第2回委員会

期日：平成18年9月28日

場所：九州大学箱崎理系地区21世紀交流プラザ 会議室

審議事項：

- (1)委員長挨拶
- (2)議事録担当選出
- (3)アンケート資料の取り扱いについて
- (4)各社からのタンク振動トラブルに関するアンケート報告
- (5)今後の検討方法についての討議

第3回委員会

期日：平成19年1月17日

場所：九州大学箱崎理系地区21世紀交流プラザ 会議室

審議事項：

- (1)議事録確認
- (2)アンケート結果の整理表に関する討議
- (3)技術資料に関する討議
- (4)接水振動に関するルール関連資料に関する討議
- (5)アンケート結果に関する表に関する討議
- (6)九大で実施中の実験について説明
- (7)FEMモデルに関する検討

主な成果

成果の概要

- ・各社における機関室周辺のタンク構造の振動トラブルに関するデータを収集することになり、そのための振動データシートのフォームが決定された。
- ・そのフォームに従って、本委員会に参加しているすべて造船会社より収集されたデータシート(15件)についてそれぞれ詳しい説明が行われ、不明な点については、さらに調査することとした。
- ・データシートをもとに、タンクの形状とサイズ、防撓形式、計測された振動数、推定された振動数、加熱の有無などが表に整理され、分析が行われた。
- ・従来のタンク壁の振動推定に用いられている設計式(主に船級協会のガイドラインに示されている設計式)について調査を行い、検討をおこなった。実船のデータを検討した結果、呼吸モードと思われる明らかに低い振動数で振動しているものが多数あり、今後の詳細な検討の対象とした。
- ・今後の具体的な研究計画や作業内容について討論を行い、具体的な研究計画を作成することになった。

目標達成度

初年度は、当初より、データ収集および呼吸モードに代表される低次振動に関する実績を収集し、そのデータを分析することを目標としていたので、目標はほぼ達成された。達成度 ほぼ100%

成果の発展性と今後の課題

(ア)研究対象のターゲットの確定

従来の設計式で推定される接水時基本固有振動数よりも50%以上低い固有振動数を有する振動モードを検討の対象とする。

特に、呼吸モード(タンクのすべての面が外側あるいは内側に同相で大きく振動するモード)を十分検討し、設計段階で推定できるようにする。

(イ)今後の研究における作業の流れ

実船データの収集

すでに、呼吸モードらしき振動が実船において複数確認された。また、今後の実船計測についても継続的に検討する。

信頼できる詳細な解析法の検討

NASTRANなどの汎用解析ソフトの精度検証を行う。特に従来、精度が怪しいといわれている接水による付加質量効果の精度検証を行う。下記の実験室レベルの振動計測との比較検討を行う。その際、モデル化による影響についても、ISSCの比較計算の検討を参考に検討を行い、適切なタンク構造FEM推奨モデルを作成する。

並行して、九大で開発されたタンク構造接水振動プログラム(FEM+BEM)を実船タンク構造に適用できるように拡張、改良する。

精度が得られる適切なモデルが確認されれば、シリーズ計算を行い、タンク形状、自由表面の影響、防撓形式の影響、隣接構造の影響、補強の効果などについて検討を行う。

実験室レベルのタンク構造の振動実験(九大の科研費による研究と連携)

インパクト加振法および強制振動実験を行い、固有振動数、固有モード、および、起振方法による呼吸モードの励起のメカニズムを解明する。

簡易推定法の開発

実験および詳細計算で得られた情報と振動メカニズムをもとにして、エネルギー法などを利用した、設計段階で利用できる簡易数値解析ツールを開発する。

設計式の開発

さらに、加熱の影響、隣接構造の影響を考慮した設計式を作成する。

委員会名：P13 居住区防火・防熱設研究委員会

委員長：井上義行

委員の現員数：31名

委員会の開催数：8回

第1回委員会

期日：平成18年2月7日

場所：三菱重工業(株) 長崎造船所

審議事項：活動趣旨、内容、スケジュールの策定

第2回委員会

期日：平成18年3月17日

場所：三井造船本社

審議事項：第103回造船設計部会において本研究活動内容、スケジュール案の審議

第3回委員会

期日：平成18年6月30日

場所：サノヤスヒシノ明昌(株) 水島製造所

審議事項：本研究に関する各担当の検討内容について審議

第4回委員会

期日：平成18年9月6日

場所：佐世保重工業(株) 佐世保造船所

審議事項：本研究に関する各担当の検討、アンケート案、ルール解釈などの検討内容について審議

第5回委員会

期日：平成18年9月21日

場所：(株)名村造船所 伊万里事業所

審議事項：第 104 回造船設計部会において本研究活動の進捗報告及び研究内容の審議

第 6 回委員会

期日：平成 18 年 12 月 14 日

場所：(株)名村造船所 伊万里事業所

審議事項：本研究活動への各委員からのコメント審議及び各担当の研究内容の審議

第 7 回委員会

期日：平成 19 年 3 月 2 日

場所：博多駅前 深見ビル

審議事項：改訂した設計指針案への各委員からのコメントに対する対応方針審議

第 8 回委員会

期日：平成 19 年 3 月 15 日

場所：三菱重工業(株) 神戸造船所

審議事項：第 105 回造船設計部会において、本研究活動の進捗報告と各委員コメントを織込んだ設計指針案について審議

特記すべき活動・特になし

主な成果

- ・条約解釈を明確にし、最新の防火構造を纏め、設計者の指針としたこと。
- ・熱源、熱計算、防結露計算、最新の防熱構造などを体系的に纏め、設計者の指針としたこと。
- ・担当者のポテンシャルアップに寄与したこと。

目標達成度

年度末までに、当初予定通り「居住区防火防熱設計指針」を見直したドラフトの作成までを完了予定。

成果の発展性と今後の課題

最新の条約解釈、計算例、防火構造、防熱構造などを順次追加することにより、更に内容の充実を図り、設計者の使い易い指針とする。

委員会名：P14 東アジア海洋環境モデル研究委員会

委員長：多田田茂

委員の現員数：14名

委員会の開催数：2回

第 1 回委員会

期日：平成 18 年 8 月 8 日

場所：東京大学柏キャンパス

審議事項：

- (1)委員会の目的および委員の確認
- (2)外部資金獲得の方針
- (3)委員会の活動方針

第 2 回委員会

期日：平成 18 年 11 月 28 日

場所：九州大学総合理工学府

審議事項：

- (1)活動方針の議論
- (2)ワークショップの開催
- (3)モデルのメンテナンス
- (4)中国との連携

第 3 回委員会

期日：平成 19 年 3 月 20 日

場所：東京大学工学部

審議事項：

特記すべき活動

- ・MEC モデルワークショップの開催

活動データ

研究発表件数 6 件

主な成果

成果の概要

東アジアにおける海洋環境モデル研究の現状について調査した。各国の研究者との連携について検討し、特に中国との連携について現地大学の研究者と意見交換し情報収集を行った。ワークショップを開催しモデルユーザーからのフィードバックおよび今後の開発方針について検討する予定で会う。

目標達成度

当初の目的はほぼ達成している。

成果の発展性と今後の課題

東アジアにおける海洋環境モデル研究の現状を調査することによって、研究委員会としての取り組みの方向性が明らかになってきた。いくつかの事例研究が提案されており、今後具体的な研究活動に発展する可能性がある。ただしモデル構築・検証のためのデータ入手に関しては、国によってはシステム上非常に難しいことが判明したため、どのような形で連携していくか検討する必要がある。

委員会名：P15 マルチハル船のフィジビリティ検討委員会

委員長：池田良穂

委員の現員数：15 名

委員会の開催数：4 回

第 1 回委員会

期日：平成 18 年 5 月 25 日

場所：大阪大学コンベンションセンター第 3 会議室

審議事項：

- (1)今後の研究アイデアについて
- (2)今後の活動方針

第 2 回委員会

期日：平成 18 年 9 月 7 日

場所：ホテルサンルート熊本

審議事項：

- (1)各委員の状況報告
- (2)平成 18 年周期講演会オーガナイズドセッションについて
- (3)国内外の学会および会議に発表されたマルチハル船関連論文の調査報告
- (4)マルチハル船の将来展望および研究課題について
- (5)外部資金獲得のための申請計画について
- (6)今後の活動方針

第 3 回委員会

期日：平成 18 年 11 月 16 日

場所：神戸国際会議場

審議事項：

- (1)委員会の活動報告
- (2)今後の活動方針

第 4 回委員会

期日：平成 19 年 3 月 13 日

場所：日本造船技術センター会議室

審議事項：

- (1)各委員の状況報告
- (2)平成 19 年春講演会オーガナイズドセッションについて
- (3)今後の活動方針

特記すべき活動

- ・平成 18 年度日本船舶海洋工学会関西支部春季講演会 OS マルチハルセッション(4 件)(平成 18 年 5 月 25 日)
- ・平成 18 年度日本船舶海洋工学会秋季講演会 OS マルチハル

セッション(4件)(平成18年11月16日)

- ・外部講師による特別講演「オーシャンアローの実績と将来戦略」熊本フェリー社長 井手 雅夫 氏(平成18年9月7日)

活動データ

研究発表件数

- ・平成18年度日本船舶海洋工学会関西支部春季講演会 OS マルチハルセッション(4件)
- ・平成18年度日本船舶海洋工学会秋季講演会 OS マルチハルセッション(4件)

主な成果

成果の概要

4回の委員会を開催すると共に、講演会において「マルチハル船」のオーガナイズドセッションを運営して、マルチハル船に関する研究の振興を図り、かなりの成果を挙げたと思う。また、マルチハル船に関する論文リストを作成して、CD化するなど研究情報の共有化を図った。

目標達成度 70%

成果の発展性と今後の課題

マルチハル船に関して興味のある研究者、技術者による情報交換をする場を今後も提供すると共に、日本におけるマルチハル船開発の動きを作り出すような活動を行うことが第2年目には望まれる。したがって造船所および船会社の実務者に本研究委員会への参加を呼びかけ、本研究委員会から具体的な開発プロジェクトを立ち上げるきっかけを発信するようにするのが、今後の課題である。

委員会名:P16 海洋におけるプラットフォーム技術検討プロジェクト研究委員会

委員長:高木 健

委員の現員数:23名

委員会の開催数:1

第1回委員会

期日:平成19年1月22日

場所:東京大学生産技術研究所

審議事項:

(1)研究会の進め方

- ・運営、会のイメージ、ゴールイメージについて討議した。

(2)研究紹介

- ・各委員が用意した資料にもとづき、過去・現在の仕事を紹介した。

ストラテジー研究委員会

委員会名:S1 IMO 復原性基準の機能要件化のための転覆リスク評価法研究委員会

委員長名:梅田直哉

委員の現員数:12名

委員会の開催数:3回

第3回委員会

期日:平成18年5月24日

場所:大阪大学大学院工学研究科船舶海洋工学部門

審議事項:

(1)IMO intact stability CG 中間会合報告

(2) 科研の実行計画

(3) SAFEDOR-NMRI workshop

(4) 外部講師招聘の件(5) 今後の委員会の活動方針

第4回委員会

期日:平成18年11月15日

場所:大阪府立大学大学院工学研究科海洋システム工学分野

審議事項:

(1) IMO SLF49 小委員会報告

(2) STAB2006 報告

(3) ITTC 波浪中復原性専門委員会報告

(4) 各委員の活動報告(5) 特別講演(6)今後の活動方針

第5回委員会

期日:平成19年3月5日

場所:大阪大学大学院工学研究科船舶海洋工学部門

審議事項:

(1) 各委員の状況報告

(2) 今後の委員会としての活動方針

(3) 本委員会の成果発表会について

特記すべき活動

- ・関西支部春季講演会 OS1 企画(発表8件)(平成18年5月26日)

- ・秋季講演会 OS11 企画(発表8件)(平成18年11月17日)

- ・春季講演会 OS8 企画(発表8件)(平成19年5月24日)

- ・外部講師を招聘しての勉強会(その2)分岐理論(平成18年11月15日)

- ・ITTC 波浪中復原性専門委員会の支援(委員2名参加)

活動データ

研究発表件数(文献リストを添付)

- ・船舶復原性国際会議7件

- ・関西支部春季講演会 OS1 にて8件

- ・秋季講演会 OS11 にて8件 外部資金獲得実績:科研3件

- ・基盤B「新国際基準で求められる波浪中船舶の転覆リスクの非線形力学的評価法の確立」

- ・基盤B「強非線形船体運動の定量的予測実現を目指した模型実験システムと最適数学モデルの確立

- ・若手B「高度船舶復原性評価のためのハイブリッド船体極限運動予測法の構築」

主な成果

成果の概要

パラメトリック横揺れについて、コンテナ船とPCCを対象に、数値シミュレーションと模型実験の比較を行い、コンテナ船で不規則波中の振幅推定に問題があり、その主な理由が復原力係数の推定でなく、非エルゴート性にあるらしいことを示した。ブローチングについては、規則波中の発生限界を求める方法を分岐理論により数学的に完成した形に再構築するとともに、不規則波中の発生確率の推定理論を提案し、その数値実験的検証に成功した。デッドシップ状態の復原性評価では、漂流姿勢の考慮、風と波の統計的相関の反映、横揺れ減衰力の推定法の改良、海水流入や荷崩れの考慮、有効波傾斜係数の簡易推定法の開発などを行い、転覆確率の推定法の高度化を図った。そして、このような成果がIMOでも日本政府提案文書として公表されたところ、アメリカ合衆国政府の全面支持を得て、SLF50(平成19年5月)に、日米蘭共同提案を行うところまで国際的に高く評価された。

目標達成度:これまでのところ順調に進捗している。

成果の発展性と今後の課題

これらをつまえて、IMOの非損傷時復原性基準策定にむけて、学術面からの貢献を目指したい。今後の課題としては、不規則向波中でパラメトリック横揺れの最大振幅の推定精度の改善、不規則波中横揺れ減衰力の開発、横揺れのfirst-passage time推定精度の改良などが緊急の課題である。

計画変更の必要性

IMOでの復原性基準の機能要件化の目標が、当初の平成19

年からさらに4年程度延長される方向にあるため、その決定を受けて本委員会の設置期間を延長するかどうか考慮する必要が生じる。

委員会名：S2 船体構造国際標準規則研究委員会

委員長名：角 洋一

委員の現員数：20名

委員会の開催数：3回

第4回委員会

期日：平成18年7月13日

場所：日本造船工業会会議室

審議事項：

- (1) IACS CSR及びIMO GBSの動向について
- (2) 東部及び関西支部春季講演会におけるオーガナイズドセッション報告
- (3) CSR及びGBSに関する学会への依頼事項
- (4) 疲労強度評価のためのシェル・ソリッド混合解法の開発について

第5回委員会

期日：平成18年9月28日

場所：日本造船工業会会議室

審議事項：

- (1) IACS CSR及びIMO GBSの動向について
- (2) ISSC2006出席報告
- (3) 波浪荷重、最終強度、疲労強度に関する検討

第6回委員会

期日：平成18年12月21日

場所：日本造船工業会会議室

審議事項：

- (1) IACS CSRおよびIMO GBSの動向について
- (2) 波浪荷重、最終強度、疲労強度に関する検討

特記すべき活動

・上記の通り、本委員会委員をオーガナイザーとしたセッションが、学会の東部及び関西支部春季講演会で開かれ（「IACS CSRの発効と今後の課題」、「CSRに関する技術検討」）活発な討論が行われた。

委員会名：S3 海洋教育ストラテジー研究委員会

委員長名：荒井 誠

委員の現員数：21名

委員会の開催数：9回

第4回委員会

期日：平成18年4月19日

場所：海洋政策研究財団

審議事項：

- (1) 海洋政策研究財団との情報交換
- (2) セミナーの後処理について
- (3) 今後の作業分担について
- (4) 理科教育研究会関係の調査報告
- (5) 国立室戸少年自然の家に関する調査報告

第5回委員会

期日：平成18年6月15日

場所：横浜国立大学ビジネススクールみなとみらいキャンパス

審議事項：

- (1) セミナー報告原稿の確認
- (2) ホームページの現状と改善点について
- (3) 海のトリビアの購入報告と意見交換

(4) 埼玉県理科教育研究会に関する調査報告

(5) 片瀬小学校体験セーリングの見学について

(6) NOSB 調査報告

(7) GEMS 科学教育フォーラム開催情報

(8) 海洋政策研究財団海洋教育支援サイトに関する報告

(9) 「研究船に乗って海を学ぼう」紹介

(10) ネットで公開されているコンテンツと、河川における教育に関する調査報告

(11) 米国 Ocean Institute による海洋教育事例

(12) 今年度作業内容について

第6回委員会

期日：平成18年7月13日

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

審議事項：

- (1) 片瀬小学校3年生ヨットハーバー見学とヨット体験報告
- (2) 第2回GEMS科学教育フォーラム参加報告
- (3) JAMSTEC「しんかいのおはなし」紹介
- (4) 海洋科学高校設立 紹介
- (5) 日本造船工業会「Shipbuilding News Vol.01 暮らしを支える造船業」紹介
- (6) 東京電力の広報である「科学マガジンサイエンスキッズ」の紹介
- (7) 今年度作業内容の提案

第7回委員会

期日：平成18年9月4日

場所：日本船舶海洋工学会

審議事項：

- (1) 今年度後半の活動計画について
- (2) 日本海事新聞記事(H18.7.20)：海を知り世界を知るの報告
- (3) ベットボトル船「高橋丸」の出航式に関する情報
- (4) KANRINに掲載されたセミナー開催報告の別刷りに関する紹介
- (5) 「商船三井キッズ・クルーズ」に関する情報提供と本研究会委員との協力について

第8回委員会

期日：平成18年11月14日

場所：日本船舶海洋工学会

審議事項：

- (1) 「水中ロボットフェスティバル」開催報告
- (2) 「おれっちのノーチラス号コンテスト」開催報告
- (3) 大阪府大海洋システム工学科 少年(小学生)サマーセミナーの紹介
- (4) 「高橋丸出航式」報告
- (5) 第91回海洋工学懇談会開催案内
- (6) 海洋学会教育問題研究部会の最新動向について
- (7) 商船三井キッズ・クルーズについて
- (8) 海洋教育船の実例と水産高校の実習船の利用について
- (9) 既存コンテンツの調査について
- (10) 第2回セミナー開催について
- (11) 海洋教育船コンセプトのコンペの提案

第9回委員会

期日：平成18年12月8日

場所：日本船舶海洋工学会

審議事項：

- (1) 東部支部会務委員会における子供向けホームページ開設について
- (2) 海洋教育セミナー開催について
- (3) 既存コンテンツの評価
- (4) 平成19年春季講演会・オーガナイズドセッションについて

て

- (5) 委員会ホームページ内の活動紹介
- (6) 今後の役割分担について
- (7) 水産高校との連携について
- (8) 商船三井キッズ・クルーズにおける企画について
- (9) 水中ロボフェスからの協力依頼について

第10回委員会

期日：平成19年1月25日

場所：日本船舶海洋工学会

審議事項：

- (1) 平成19年春季講演会・オーガナイズドセッションについて
- (2) 海洋教育セミナー開催について
- (3) 三崎水産高等学校訪問の日程について
- (4) 海洋教育ポータルサイトの構築について
- (5) キッズ・クルーズについて
- (6) 最終報告書について
- (7) ホームページのコンテンツ作成に関する学会各支部との連携について

第11回委員会

期日：平成19年2月23日

場所：東京大学生産技術研究所

審議事項：

- (1) 三崎水産高校練習船「湘南丸」見学報告と高校訪問について
- (2) 第2回セミナー開催について
- (3) コンテンツ作成について
- (4) 春季講演会・オーガナイズドセッションについて
- (5) キッズ・クルーズの企画について
- (6) 「白鳳丸」見学会の紹介

第12回委員会

期日：平成19年3月30日

場所：東京海洋大学

審議事項：

- (1) 第2回セミナー開催について
- (2) 海洋教育支援ポータルサイトコンテンツについて
- (3) 商船三井キッズ・クルーズ教材と進め方について

特記すべき活動：

- (1) 第2回セミナー「日本の海洋教育を考える」の開催
期日：平成19年3月30日 場所：東京海洋大学

委員会名： S4 研究ストラテジー研究委員会

委員長名： 藤久保昌彦

委員の現員数：14名

委員会の開催数：4回

第2回委員会

期日：平成18年6月8日

場所：日本船舶海洋工学会

審議事項：

- (1) 日本船舶技術研究協会との連携について
- (2) EEUの研究プロジェクト体制について
- (3) これまでの技術開発課題検討のレビュー（SR 将来ビジョン検討委員会、日本造船学会将来技術検討委員会、第3期科学技術基本計画）

第3回委員会

期日：平成18年8月4日

場所：東大工学部環境海洋工学専攻会議室

審議事項：

- (1) 長塚誠治氏による特別講演「世界の造船業の構造変化と展望（造船需給と日本の対応）」

(2) 本委員会の検討課題と検討方針

(3) 西部支部技術開発課題検討委員会の検討報告

(4) 今後の船舶技術の研究開発の方向性について

第4回委員会

期日：平成18年10月12日～14日

場所：KKR

審議事項：

第1日目（情報交換）

(1) 船社から見た技術開発課題

(2) これからの安全・環境基準～市場を制するための国際基準戦略

(3) 欧州における船舶技術開発の現状について

(4) 人材の育成と確保

第2日目（技術開発課題と開発戦略）

(1) 省エネ、国際基準、海洋の3WGの編成と分割討議

(2) WG報告と全体討議、提言案の審議

第3日目（人材育成）

(1) 企業が求める人材と造船教育、インターンシップのあり方

(2) 企業の国際化と人材

第5回委員会

期日：平成18年12月12日

場所：日本船舶海洋工学会

審議事項：

(1) 海洋分野の技術開発課題と開発体制

(2) 省エネ船に関する技術開発課題と開発体制

(3) 午後は、西部支部フォーラム「競争力強化のための造船技術開発に関するフォーラム」に参加

特記すべき活動

(1) 西部支部フォーラム「競争力強化のための造船技術開発に関するフォーラム」の開催

主な成果

成果の概要：造船・海洋分野の技術開発課題と開発体制について多面的に審議し、検討すべき課題と提言素案の中間まとめを作成した。

目標達成度：現時点では基本的に課題の列記に留まっている

成果の発展性と今後の課題

・海洋WGに海洋技術フォーラムからも参画頂きWGを拡大編成する。

・春季講演会OSで検討内容を報告する。

委員会名： JTTC

委員長名： 木下 健

委員の現員数：42名

委員会の開催数：3回

第4回委員会

期日：平成18年6月20日

場所：東京大学生産技術研究所

審議事項：

(1) 新委員報告

(2) 17年度事業、会計報告

(3) 技術委員会報告

(4) 推進性能研究会、運送性能研究会報告

(5) 第25期ITTC総会福岡開催の予算に関する審議

(6) 第25期ITTC総会福岡準備状況報告

(7) 第25期ITTC総会技術プログラム日程および今後の審議

予定

第 5 回委員会

期日：平成 18 年 10 月 10 日

場所：倉敷シーサイドホテル

審議事項：

- (1)第 25 期 ITTC 評議会、理事会（ローマ開催）会議報告
- (2)第 25 期技術委員会報告
- (3)推進性能研究会、運動性能研究会報告
- (4)推進性能研究会、運動性能研究会との連携についての審議
- (5)第 25 期 ITTC 福岡総会の開催準備に関する審議

第 6 回委員会

期日：平成 19 年 2 月 6 日

場所：大阪大学工学部

審議事項：

- (1)委員の交代、会計、活動状況の報告
- (2)平成 19 年度 ITTC 福岡開催関連特別予算申請状況報告
- (3)25 期 ITTC 開催実行委員会報告
- (4)第 26 期 ITTC 技術委員会報告
- (5)運動性能研究会、推進性能研究会報告
- (6)第 25 期 ITTC 総会（福岡）組織委員会立ち上げおよび第 1 回組織委員会に関する審議
- (7)25 期 ITTC 総会開催に関する審議

特記すべき活動：

- ・それぞれの委員会開催にあわせて幹事会を行い、ITTC 対応についてなどの審議を行った。
- ・2008 年に日本船舶海洋工学会主催で第 25 回国際試験水槽会議（ITTC2008）の開催準備のため、柏木委員を委員長とする現地実行委員会を開催した。

委員会名：JSSC

委員長名：角 洋一

委員の現員数：27 名

委員会の開催数：2 回

第 12 回委員会

期日：平成 18 年 5 月 19 日

場所：東京海洋大学越中島会館

審議事項：

- (1)ISSC2006 の開催準備状況について
- (2)ISSC2006 技術委員会報告書への討論について
- (3)委員会経費の配分について
- (4)ISSC 技術委員会委員の変更に伴う JSSC 新委員の委嘱について

第 13 回委員会

期日：平成 18 年 11 月 16 日

場所：神戸国際会議場 403 号室

審議事項：

ISSC 中間理事会報告

- (1)第 16 回国際船舶海洋構造会議（ISSC2006）出席報告（学会誌報告記事）
- (2)ISSC2009 Standing Committee への提言について
 - ・IMO との関係について、「ISSC は学術の場であって、多数決で意見を統一するような場ではないので、ISSC の報告を踏まえ、それぞれの国において意見をまとめて IMO に提言するべき」。
 - ・ISSC は、Technical Review が主であり、学術的にも技術的に価値のある Report を出すことが一義的に重要。
 - ・TC IV.1 が IMO GBS に対応すべく吉田氏（海技研）の委員追加を要請。

(3)ISSC2006 の反省点

- ・技術委員の評価、委員の選考過程の透明性。
- ・委員会構成上人数が多くなりすぎた委員会がある。
- ・参加費が 500 ポンドと高額化（日本での ISSC2000 は約 400 ドルで実施）

(4)各技術委員会の活動状況

特記すべき活動

- ・ISSC 2006（平成 18 年 8 月 20 - 25 日、英国サザンプトン大学にて開催）への対応とともに、ISSC2009（韓国開催）に向けた次期技術委員の推薦を行った。